

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
やりたいことを探そう！	10

1 章 本体の機能

15

1 各部の名前	16
① 前面図	16
② 背面図	17
③ 裏面図	18
2 インジケータ	21
3 キーボード	22
① キーボード図	22
② キーシフトインジケータの切り替え	24
③ キーを使った便利な機能	25
④ 東芝ホットキーユーティリティ	28
4 タッチパッド	30
① タッチパッドを設定するには	30
② タッピング機能	31
③ その他の設定	33
④ タッチパッドを無効／有効にするには	35
⑤ PadTouch 機能を使う	36
5 ディスプレイ	39
① ディスプレイの設定	39
② 時間帯で壁紙を変える	40
6 ハードディスクドライブ	47
① ハードディスクドライブに関する表示	47
7 サウンド機能	48
① スピーカの音量を調整する	48
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	49
8 ドライブ	50
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	50
② 使用できる CD	51
③ 使用できる DVD	53
9 セキュリティロック	55

2 章 音楽と映像

57

- 1 音楽 CD を聴く 58
 - ① 音楽 CD を再生する 58
- 2 音楽ファイルを聴く 62
 - ① BeatJam でファイルを再生する 62
 - ② Windows Media Player でファイルを再生する 65
- 3 オリジナル音楽 CD を作る 69
 - ① Drag'n Drop CD + DVD を使うために 69
 - ② Drag'n Drop CD + DVD を使う 70
 - ③ Drag'n Drop CD + DVD を終了する 72
- 4 DVD-Video を観る 73
 - ① InterVideo WinDVD を起動する 74
 - ② InterVideo WinDVD を使う 75
- 5 デジタルカメラの写真を編集／整理する 79
 - ① デジカメ Walker を使う 79

3 章 通信機能

83

- 1 LAN へ接続する 84
 - ① LAN へ接続する 84
 - ② ネットワーク設定に便利な機能 86
- 2 内蔵モデムについて 91
 - ① 海外でインターネットに接続する 91

4 章 周辺機器の接続

95

- 1 周辺機器について 96
 - ① 周辺機器を使う前に 97
- 2 フロッピーディスクドライブを接続する 98
 - ① フロッピーディスクドライブ 99
 - ② フロッピーディスク 100
 - ③ フロッピーディスクを使う前に 101

3	PC カードを接続する	105
①	PC カードを使う前に	105
②	PC カードを使う	106
4	USB 対応機器を接続する	108
5	プリンタを接続する	110
①	プリンタの接続と設定	110
6	テレビを接続する	112
7	外部ディスプレイを接続する	117
8	その他の機器を接続する	118
①	マイクロホン	118
②	ヘッドホン	119
③	オーディオ機器	120
9	メモリを増設する	121

5 章 バッテリー駆動

127

1	バッテリーについて	128
①	バッテリー充電量を確認する	129
②	バッテリーを充電する	131
③	バッテリーパックを交換する	133
2	省電力の設定をする	135
①	省電力ユーティリティ	135
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	142
①	スタンバイ	143
②	休止状態	144
③	簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	145

6 章 アプリケーションについて

147

1	アプリケーションを追加（インストール）する	148
2	アプリケーションを削除（アンインストール）する	149

7章 システム環境の変更

151

- 1 システム環境の変更とは 152
- 2 BIOS セットアップを使う 153
 - ① BIOS セットアップの操作 153
 - ② パスワードの設定 155

付録

161

- 1 本製品の仕様 162
- 2 技術基準適合について 165
- 総合さくいん 181

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊１）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊１）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊２）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊３）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

- * １ 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- * ２ 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- * ３ 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インプット 2003 を示します。

サイバーサポート CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ マルチドライブを示します。

 詳細について「1 章 8 ドライブ」

Office 搭載モデル Microsoft® Office Personal Edition 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「****モデルのみ」と注記します。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、Office ロゴ、Outlookは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Intelは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス、マイペンシルは、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス/R.2、マイペンシル/R.2は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス/R.2、マイペンシル/R.2にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ LaLaVoice、ConfigFreeは（株）東芝の登録商標です。
- ・ The 翻訳、The 翻訳インターネットは東芝ソリューション株式会社の商標です。
- ・ 駅前探検倶楽部は株式会社駅前探検倶楽部の登録商標です。
- ・ ekitanExpress Online の商標は出願中です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- ・ Drag'n Dropはイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
Norton Internet SecurityはSymantec Corporationの商標です。
© 2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ InterVideo、WinDVDはInterVideo,Inc.の登録商標または商標です。
- ・ Liquid Viewは、Portrait Displaysの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ～ 35℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・ 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・ 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・ 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 参照▶ 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

やりたいことを探そう！



Welcome!

探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」⇒ XXXXX
└─ アプリケーション名 ─┐ 参照ページまたは
└──────────────────┘ 参照マニュアル名



通信を楽しむ



- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」⇒『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」⇒『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳 インターネット」⇒《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」⇒P.91
- ・ ネットワークの診断や切り替えをしたい
「ConfigFree」⇒P.86



メールを使う

- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Office Outlook」*1 ⇒《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい
「Microsoft Office Outlook」*1 「Outlook Express」
⇒『基本をマスター 3章』
- ・ 自動メールチェックしたい
「ぱらちゃん」⇒《サイバーサポート》

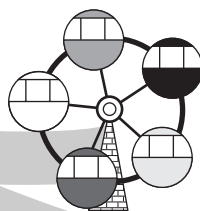


*1 Office 搭載モデルのみ



音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
[Windows Media Player] ⇒P.58、65
- ・オリジナル音楽CDを作りたい
[Drag'n Drop CD+DVD] ⇒P.69
- ・音楽CDやファイルを再生、管理したい
[BeatJam] ⇒P.58、62



音声

- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
[LaLaVoice] ⇒《サイバーサポート》



画像/映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
[デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)] ⇒P.79
- ・DVDを楽しみたい
[InterVideo WinDVD] ⇒P.73



文書/表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Office Word」*1 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Office Excel」*1 ⇒ 《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Adobe Reader」⇒ 《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「プロアトラスW2 for TOSHIBA」⇒ 《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」 「ekitanExpress Online」⇒ 《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒ 《サイバーサポート》
- ・ホームページを作りたい
「ホームページミックス/R.2」⇒ 《サイバーサポート》
- ・日記をつけたい
「マイペンシル/R.2」⇒ 《サイバーサポート》
- ・キャラクターで遊びたい
「ぱらちゃん」⇒ 《サイバーサポート》

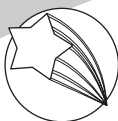


*1 Office 搭載モデルのみ



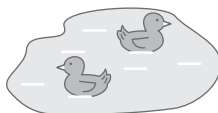
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.135
- ・アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》
- ・壁紙の設定をしたい
「くるくる壁紙チェンジャー」⇒P.40



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。
各部の手入れについても確認してください。

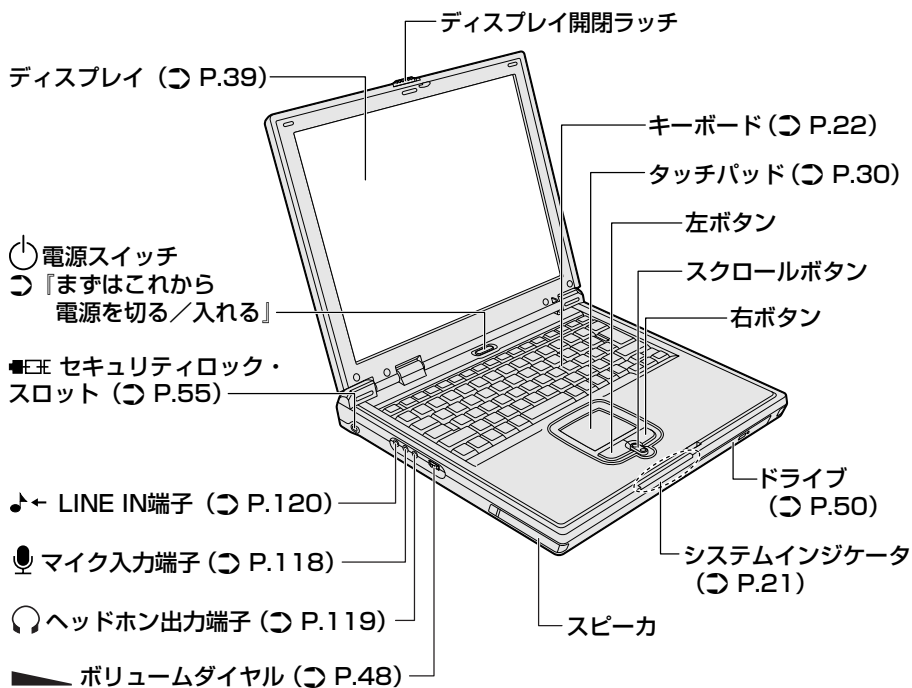
1	各部の名称	16
2	インジケータ	21
3	キーボード	22
4	タッチパッド	30
5	ディスプレイ	39
6	ハードディスクドライブ	47
7	サウンド機能	48
8	ドライブ	50
9	セキュリティロック	55

1 各部の名前

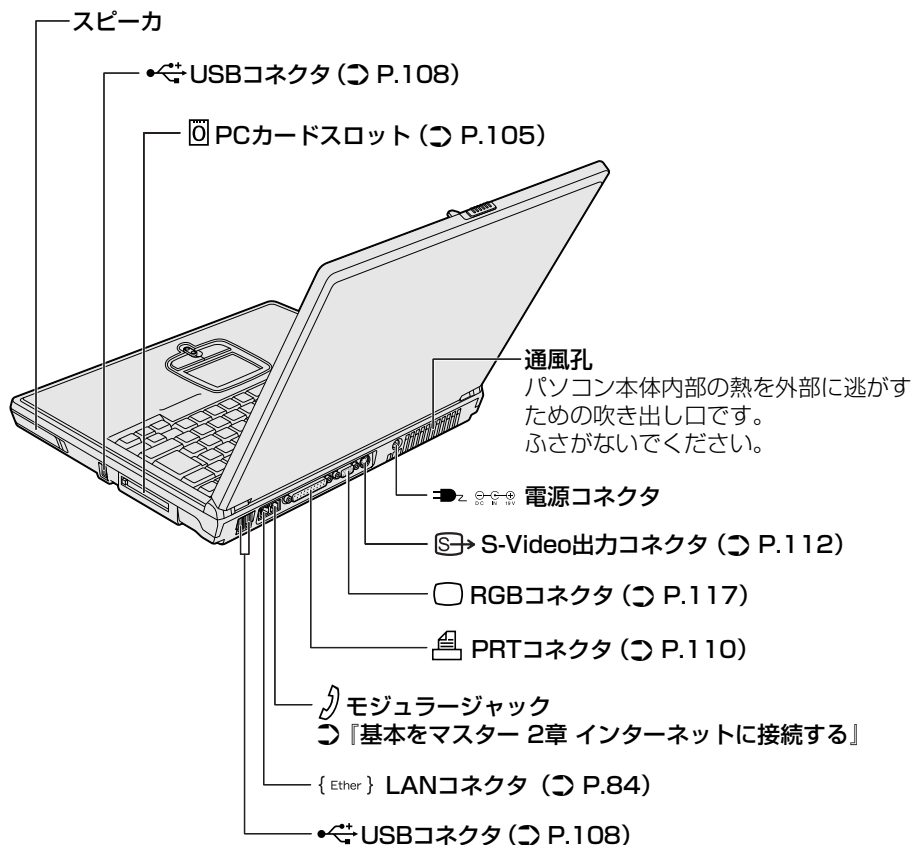
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

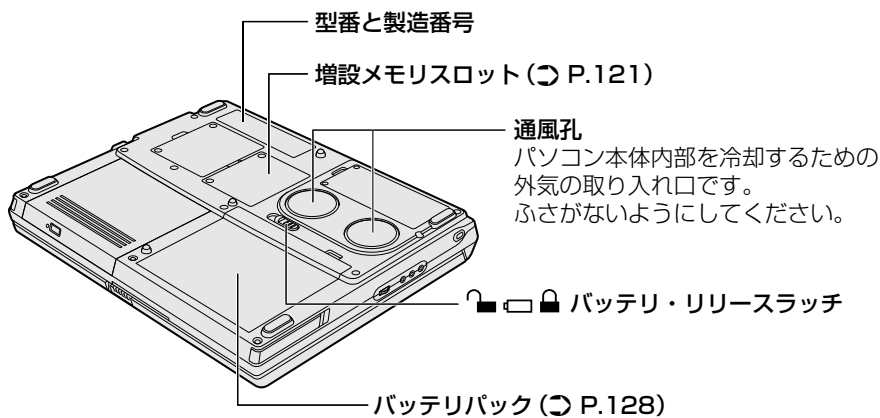
1 前面図



2 背面図



3 裏面図



【電源コードとACアダプタの仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、日本の安全規格・法令に適合しています。その他の地域で使用する場合は、当該地域の安全規格・法令に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

使用できる電圧（AC）は100Vです。

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

ACアダプタの仕様

本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

ACアダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、～1500mA、50/60Hz

出力：19V、4740mA

警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、過熱・火災・破裂のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのDC出力プラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

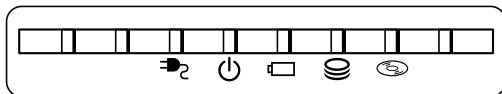
パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ～ 35℃、湿度 20 ～ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 インジケータ

インジケータについて説明します。

インジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



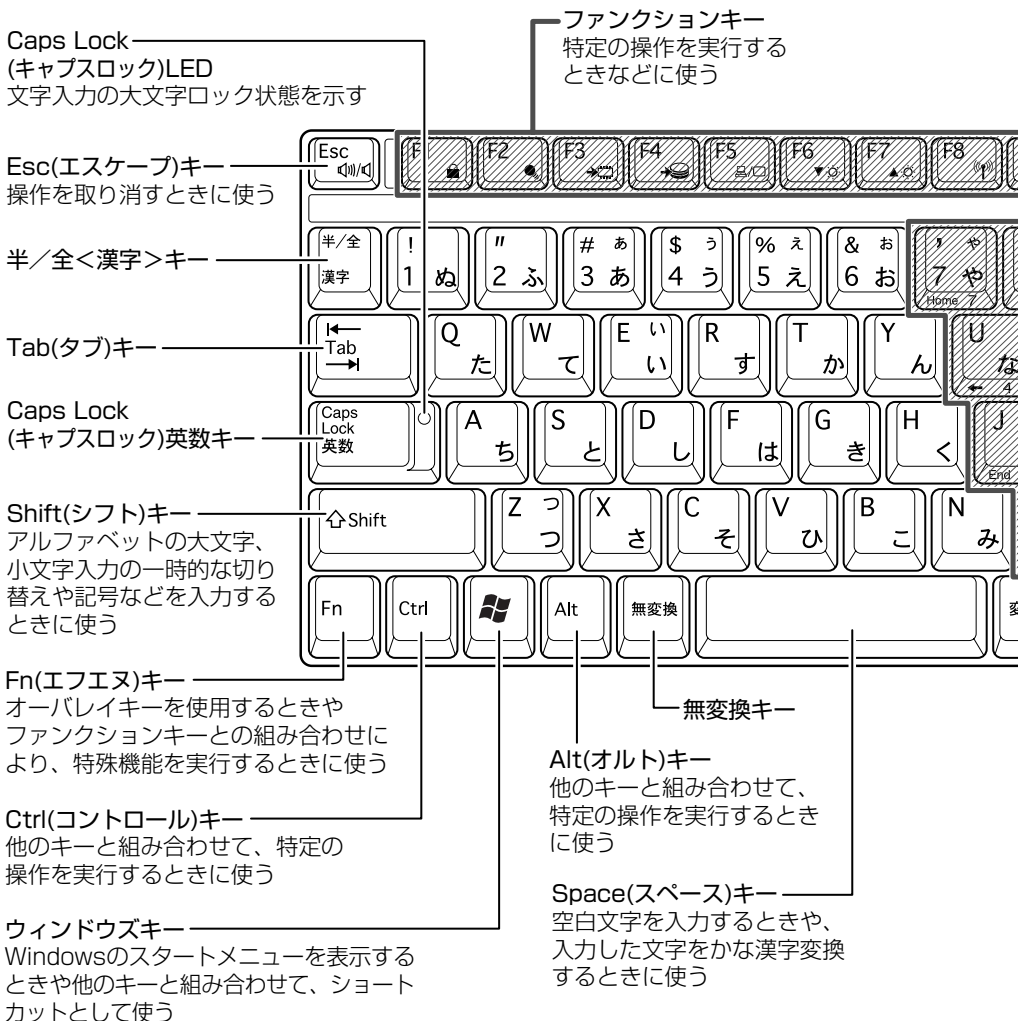
【システムインジケータ】

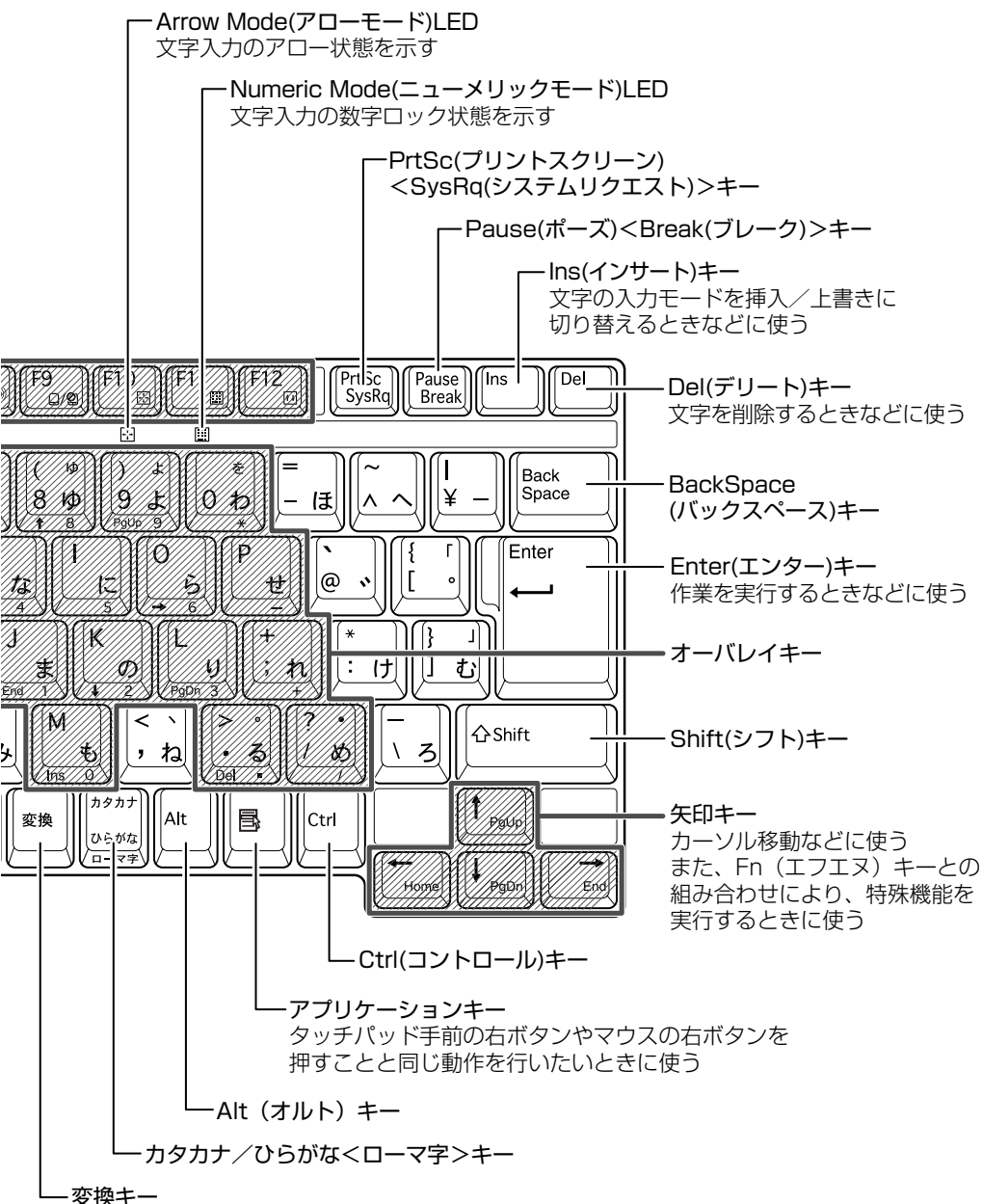
	DC IN LED	電源コードの接続 参照 → 『まずはこれから 電源を切る／入れる』
	Power LED	電源の状態 参照 → 『まずはこれから 電源を切る／入れる』
	Battery LED	バッテリーの状態 参照 → P.129
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照 → P.47
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている 参照 → P.50

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。

【 キーシフトインジケータ 】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力 できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバレイキーで、キーの前面 左側に印刷されたカーソル制御 ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバレイキーで、キーの前面 右側に印刷された数字などの文 字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn) + (Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn) + (Esc)キーを押します。
(Fn) + (Space) 〈内部液晶ディスプレイの解像度切り替え〉	(Fn)キーを押したまま、(Space)キーを押すたびに、内部液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
(Fn) + (F1) 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろこそ画面に戻る]をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。
(Fn) + (F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn) + (F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。(F2)キーを離れた位置の設定に変更できます。  省電力モード「5章 2-① 省電力ユーティリティ」

キー	内容
(Fn) + (F3) <スタンバイ機能の実行>	(Fn) + (F3)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、スタンバイ機能が実行されます。 参照 ▶ 詳細について 「本節 ④ 東芝ホットキーユーティリティ」
(Fn) + (F4) <休止状態の実行>	(Fn) + (F4)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます。 参照 ▶ 詳細について 「本節 ④ 東芝ホットキーユーティリティ」
(Fn) + (F5) <表示装置の切り替え>	表示装置を切り替えます。 詳細について 参照 ▶ 「4 章 6 テレビを接続する」
(Fn) + (F6) <内部液晶ディスプレイの輝度を下げる>	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn) + (F7) <内部液晶ディスプレイの輝度を上げる>	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn) + (F8) <無線通信機能を切り替える>	(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 *本製品ではサポートしておりません。
(Fn) + (F9) <タッチパッドオン／オフ機能>	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度、(Fn) + (F9)キーを押します。 参照 ▶ 「本章 4-④ タッチパッドを無効／有効にするには」
(Fn) + (F10) <オーバーレイ機能>	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F10)キーを押します。
(Fn) + (F11) <オーバーレイ機能>	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F11)キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excel など）によっては異なる場合があります。

キー	内容
(Fn) + (F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで (↑) (↓) (←) (→) キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度 (Fn) + (F12) キーを押します。
(Fn) + (↑) 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↑) キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn) + (↓) 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↓) キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn) + (←) 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (←) キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn) + (→) 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (→) キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【**(Windows)**キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
(Windows) + (R)	〔ファイル名を指定して実行〕画面を表示する
(Windows) + (M)	すべての画面を最小化する
(Shift) + (Windows) + (M)	(Windows) + (M) で最小化したすべての画面を元に戻す
(Windows) + (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
(Windows) + (E)	〔マイコンピュータ〕画面を表示する
(Windows) + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) + (Windows) + (F)	他のコンピュータを検索する
(Windows) + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
(Windows) + (Break)	〔システムのプロパティ〕画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

4 東芝ホットキーユーティリティ

(Fn) キーを使ってスタンバイや休止状態を実行できます。

 **参照** → スタンバイ、休止状態について
「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

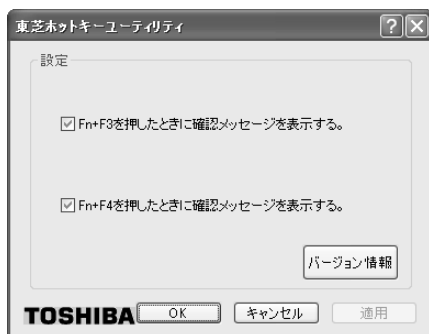
購入時の設定では、次の動作になります。

- **(Fn) + (F3)** キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリック : スタンバイ
- **(Fn) + (F4)** キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリック : 休止状態

(Fn) + (F3) キーまたは **(Fn) + (F4)** キーを押して表示される画面で [今後、このメッセージを表示しない。] をチェックして [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの確認メッセージは表示されずにスタンバイ、休止状態を実行します。

もう1度確認メッセージを表示するには、次の操作を行ってください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [ホットキーユーティリティ] をクリックする
[東芝ホットキーユーティリティ] 画面が表示されます。



左は購入時の設定画面です。

- 2 再表示する確認メッセージをチェックする
- 3 [OK] ボタンをクリックする

メモ

休止状態が無効に設定されている場合は、(Fn)+(F4)キーを使用してもスタンバイ機能が実行されます。

休止状態は、「東芝省電力ユーティリティ」の[アドバンスド]タブで有効/無効を設定します。

参照▶ 休止状態について「5章 2-①-4 [アドバンスド] タブ」

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

4 タッチパッド

タッチパッドを使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、「マウスのプロパティ」で行います。

1 【マウスのプロパティ】の起動方法

- 1 通知領域の【タッチパッド On/Off】アイコン () をダブルクリックする

画面が表示されます。



- 2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。

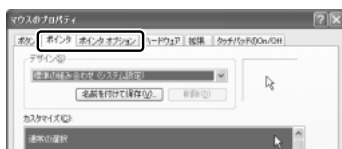
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

役立つ
操作集

ポインタの形や速度を変える

【マウスのプロパティ】では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

【ポインタ】タブでは形を、【ポインタオプション】タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡を設定できます。



2) タッピング機能

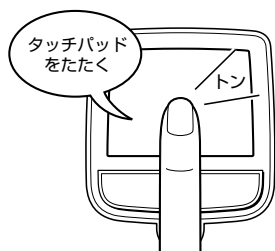
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

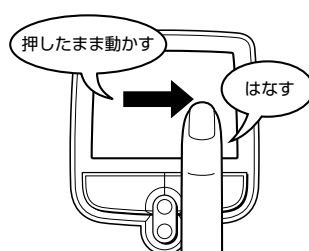
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[拡張] タブでできます。[マウスのプロパティ] 画面で、次のように操作してください。

- 1 [拡張] タブで [拡張機能の設定] ボタンをクリックする
[拡張機能の設定] 画面が表示されます。



[拡張機能の設定] 画面の [タッチパッド] タブで設定できる機能は、次のようになっています。

ボタンの設定	タッチパッドの左上、右上、左下、右下をタッピングしたときの動作や、各ボタンの動作などを設定できます。
タッチパッド面の設定	タッチパッドでブラウザの動作をしたり、スクロールをしたりできるよう設定できます。
ポインタ速度とタッピングの設定	タッチパッド操作でのポインタ速度やタッピング、タッチ感度などの各設定ができます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の [説明] フィールドに機能説明が表示されます。

【 イージーキャプチャーの設定 】

イージーキャプチャー機能を使うと、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付けることができます。

イージーキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ【ボタンの設定】でボタンやコーナーに「イージーキャプチャー」を指定しておきます。

【 イージーランチャーの設定 】

イージーランチャー機能とは、ランチャー画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。

イージーランチャー機能を使用する場合は、あらかじめ【ボタンの設定】でボタンやコーナーに「イージーランチャー」を指定しておきます。

メモ

コーナーに割り当てた機能がうまく動作しない場合は、PadTouchを無効にしてください。

 参照 ▶ PadTouch を無効にする「本節 ⑤-3 PadTouch を無効にする方法」

3 その他の設定

【拡張機能の設定】画面の【その他】タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。

【マウスのプロパティ】画面で、次のように操作してください。

1 【拡張】タブで【拡張機能の設定】ボタンをクリックする

【拡張機能の設定】画面が表示されます。

2 【その他】タブを選択する



【サウンドフィードバック】

チェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。
[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

[サウンド] タブの [プログラムイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【タスクトレイアイコン】

チェックすると、通知領域に [Touch Pad] アイコン () が表示されます。
購入時に表示される [タッチパッド On/Off] アイコンと同等の機能を持つので、通常は使用しません。

【IMEキャプチャー】

チェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の [説明] フィールドに機能説明が表示されます。

4) タッチパッドを無効／有効にするには

〔タッチパッドの On/Off〕 タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。また、通知領域にアイコンを表示するかどうかを設定できます。



【タッチパッドの On/Off】

〔有効〕 をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、〔無効〕 をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

【オプション】

〔タスクバーにアイコンを表示する。〕 をチェックすると、通知領域に〔タッチパッド On/Off〕 アイコン（）が表示されます。購入時は、チェックされています。〔タッチパッド On/Off〕 アイコン（）を右クリックして表示されるメニューから、タッチパッドの有効／無効を設定できます。

タッチパッドの有効／無効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると正常に操作できるようになります。

ヘルプの起動方法

- 1 〔マウスのプロパティ〕画面を起動後、画面右上の  をクリックする

ポインタが  に変わります。

- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

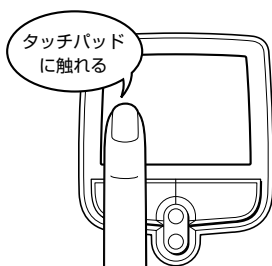
5 PadTouch 機能を使う

パッドタッチ
「PadTouch」を使用すると、アプリケーションなどを簡単に起動することができます。
「PadTouch」は、購入時の状態ではパソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（)が表示されます。

1 使用方法

次のように操作して、PadTouch を使用してください。

1 タッチパッドのコーナーに数秒間触る



このとき、指を動かさないで触ったままにしてください。

PadTouch の画面が表示されます。

表示される画面のことを、PadTouch では「テーブル」と呼びます。丸い形状のものは、テーブル上のどこが操作対象になるのかを示すポインタです。タッチパッドに触ったまま指をすべらせると、テーブル上をポインタが動きます。

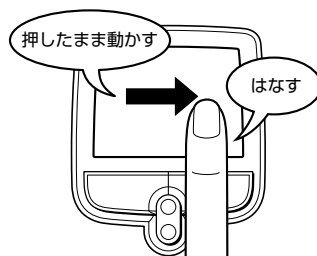


このテーブルは、タッチパッドの左下コーナーに触れた場合に起動する［お気に入り］です。

起動するテーブルは、タッチパッドのどこに触れるかによって違います。購入時は、次のように設定されています。

右上コーナーの場合	[ウィンドウ切り替え] テーブル
右下コーナーの場合	[デスクトップ] テーブル
左上コーナーの場合	[dynabook オリジナルツール] テーブル
左下コーナーの場合	[お気に入り] テーブル

2 ポインタを目的のアイコンにあわせ、タッチパッドから手を離す



ポインタをあわせたアイコンのプログラムなどが起動します。



手を離してプログラムなどを起動させた場合、それまで表示されていたテーブルは自動的に消えます。

何も選択しないでテーブルを消したい場合は、[閉じる] アイコン (✕) にポインタをあわせてタッチパッドから手を離してください。

2 設定方法

PadTouch では、起動するプログラムや画面デザインなどを設定することができます。

次のように操作して、設定画面を起動してください。

- 1 タッチパッドのコーナーに触れてテーブルを表示し、[設定] にカーソルをあわせて手を離す

PadTouch の設定画面が表示されます。

設定の詳細については、ヘルプを参照してください。

3 PadTouchを無効にする方法

PadTouch を無効にするには、次のように操作してください。

- 1 通知領域の [PadTouch] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [無効にする] をクリックする

PadTouch が使用できなくなります。

再び PadTouch を使用したい場合は、通知領域の [PadTouch] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [有効にする] をクリックしてください。

ヘルプの起動方法

- 1 通知領域の [PadTouch] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 → 外部ディスプレイの接続について
「4 章 7 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディ스플레이の設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな解像度に設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



- 3 [OK] ボタンをクリックする

2) 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使って、デスクトップの壁紙を時間帯に応じて自動的に切り替えられます。また記念日や予定のある日には、イベントアイコンをデスクトップに表示できます。

1 壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめめ次の設定を行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [デスクトップの背景を変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [デスクトップ] タブで [参照] ボタンをクリックする
- 4 [マイドキュメント] をクリックする

5 【dynabookFun 壁紙】をクリックし①、【開く】ボタンをクリックする②



6 【画面のプロパティ】画面で【OK】ボタンをクリックする

【用意されている壁紙から選択する】

- 1 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【くるくる壁紙チェンジャー】 をクリックする
- 2 【時間帯モード】 タブで設定する時間帯を選択する



切り替える時間を設定するときは
▲ ▼ ボタンをクリックします。

設定したい時間帯の枠をクリックします。
枠の線が太く、明るい赤になります。

3 「壁紙の種類」で壁紙の種類を選択し①、「お気に入りの壁紙を選択してください」から壁紙を選択する②



①の「壁紙の種類」で「ファンシー」「エレガント」「フォト」をクリックすると、②の「お気に入りの壁紙を選択してください」に表示される壁紙のサンプルが変わります。

「ランダム」ボタンをクリックすると、「お気に入りの壁紙を選択してください」に表示される壁紙のサンプルの中からランダムに切り替えます。

選択された画像は上の赤い枠内に表示されます。



【お気に入り】をクリックした場合

「本項-お気に入りの画像を壁紙に設定する」

手順2と3を繰り返し、それぞれの時間帯の時間の設定と壁紙の選択をしてください。

4 「OK」ボタンをクリックする

【お気に入りの画像を壁紙に設定する】

1 お気に入りの画像ファイルを「マイ ピクチャ」フォルダの「くるくるお気に入り」フォルダにコピーする

壁紙として選択できるファイル形式は、JPEG、GIF、BMPです。

2 「スタート」→「すべてのプログラム」→「くるくる壁紙チェンジャー」をクリックする

3 「時間帯モード」タブで設定する時間帯を選択する

2 [デイリーモード] タブで [壁紙設定カレンダー] から年月を選択し ①、日付を選択する②



3 イベントアイコンを選択し、メッセージを入力する

メッセージは全角で 10 文字まで入力できます。

イベントアイコンを表示する日の壁紙を設定する場合は手順 4 へ進んでください。

[時間帯モード] タブで設定した壁紙と同じ壁紙にイベントアイコンを表示する場合は手順 5 へ進んでください。

4 [壁紙の種類] で壁紙の種類を選択し①、◀ ▶ ボタンで壁紙を選択する②



選択した壁紙のサイズが画面サイズより小さい場合は、[表示位置] で [並べて表示] を選択すると同じ画像を並べて表示することができます。

5 [OK] ボタンをクリックする

メモ

- 設定できるイベント数は1日1件、最大50日です。
- 手順4で「並べて表示」を選択した場合、「お気に入りの壁紙を選択してください」では4分割に表示されますが、実際の表示とは異なります。

3 初期設定に戻す

それぞれのタブの「初期設定に戻す」ボタンを使うと、購入時の設定に戻ります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする
- 2 初期設定に戻すタブを選択し、[初期設定に戻す] ボタンをクリックする
- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

メモ

「マイドキュメント」フォルダのファイル「dynabookFun壁紙.html」は削除しないでください。削除すると、次に起動したときに壁紙やイベントアイコンのすべての設定が無効になります。誤ってファイルを削除したときは、「くるくる壁紙チェンジャー」を起動して[OK] ボタンをクリックすると「dynabookFun壁紙.html」が作成され、設定が有効になります。

ヘルプの起動方法

- 1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

6 ハードディスクドライブ

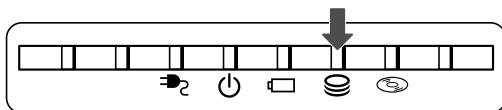
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などハードディスク以外の記憶メディアに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

7 サウンド機能

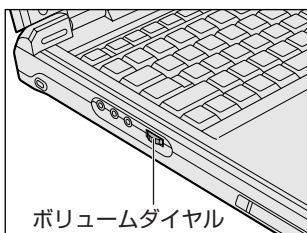
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にとするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「Volume Control」の各項目では次の音量が調整できます。

Volume Control	全体の音量を調整する
Wave	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD（Windows Media Player の場合）、DVD-ROM、DVD-Video など
CD Player	音楽 CD（Windows Media Player 以外の場合）

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

接続するマイクによって、録音レベルが異なります。

録音レベルが低い場合は、次の手順で音量を調節してください。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] を確認する
[Microphone] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [Recording Control] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[Microphone] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に 2 つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声は「Volume Control」の [Wave] 対応の場合、録音するときも [Wave] の音量により影響を受けます。

8 ドライブ

本製品には、マルチドライブが1台内蔵されています。マルチドライブはCD-R/RWドライブとDVD-ROMドライブ両方の機能を持ちます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するとき守ってほしいことが記述されています。

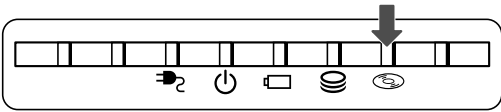
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Videoの再生にあたって

- DVD-Video再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD再生」モードに設定してください。
- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、CD-ROM  LEDが点灯します。



1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

【使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し 書換可能*2	×	×	×	×	×

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【アプリケーションとメディア】

CD-R、CD-RW には本製品に付属の「Drag'n Drop CD + DVD」で書き込みができます。

2) 使用できる CD

読み出しできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は、次の種類です。

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
書き込み速度は最大 24 倍速です。最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。
- CD-RW
書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。
マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速
High-Speed CD-RW メディア : 最大 10 倍速
Ultra Speed CD-RW メディアは使用できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。
CD-RW : 三菱化学 (株)、(株) リコー
CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)
これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
 ▶ 参照 エラーチェック《サイバーサポート》
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できる DVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ●DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
- DVD-R ●DVD-RW ●DVD-RAM

【DVD-RAMの種類】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出しする面を変更するときは、1 度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし* ¹	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）* ²	○

* 1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

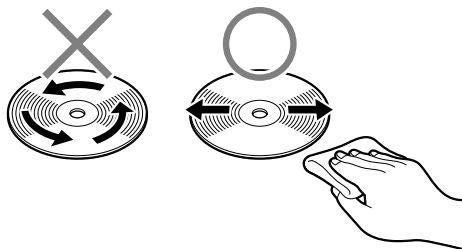
* 2 2.6GB、5.2GB のディスクは使用できません。

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み出すことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



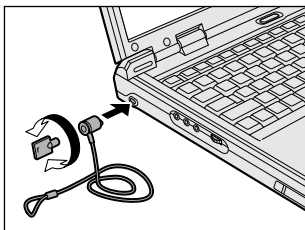
9 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2 章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それを CD に書き込んでオリジナルを作成する。写真や DVD-Video の映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽 CD を聴く	58
2	音楽ファイルを聴く	62
3	オリジナル音楽 CD を作る	69
4	DVD-Video を観る	73
5	デジタルカメラの写真を編集／整理する	79

1 音楽 CD を聴く

本製品では音楽 CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 音楽 CD を再生する

音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- | | | | |
|-----------------------|------------------------|---------------------|---------------------|
| <small>ビートジャム</small> | <small>ウィンドウズ</small> | <small>メディア</small> | <small>プレーヤ</small> |
| ● BeatJam | ● Windows Media Player | | |

1 起動方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

参照▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

[Audio CD (D:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブを右クリックし、[自動再生] をクリックしてください。

2 使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをクリックする

使用するアプリケーションが「BeatJam」の場合は [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用]、「Windows Media Player」の場合は [オーディオ CD を再生します Windows Media Player 使用] を選択してください。選択したアプリケーションが起動します。

[BeatJam] を起動したいのに [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されない場合は、[閉じる] ボタン () をクリックして画面を終了し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックして起動してください。

次回から [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されるように、「BeatJam」で設定できます。

参照▶ 設定方法『困ったときは 3 章 Q BeatJam が起動できない』

BeatJam を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認] 画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する] ボタンをクリックしてください。[同意する] ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

Windows Media Player を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。

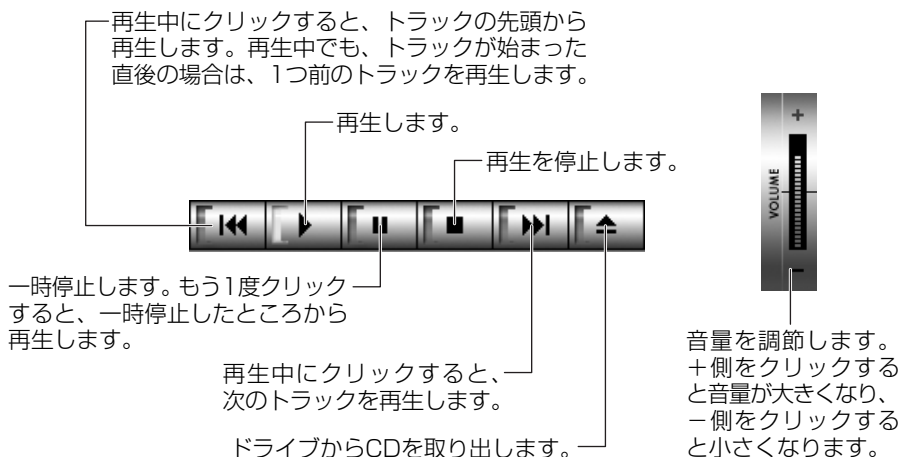
DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。



2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

BeatJam を起動した場合



【ヘルプの起動方法】

- 1 「BeatJam」を起動後、メニューバーから[ヘルプ] → [BeatJamの使い方] をクリックする

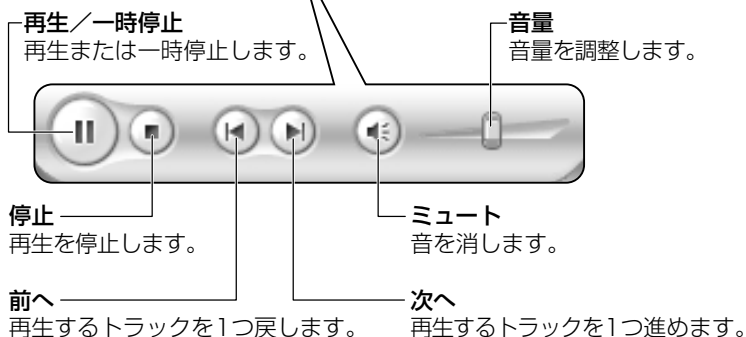


「BeatJam」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

Windows Media Player を起動した場合

Windows Media Player の画面の上の方にポインタをあわせるとタイトルバーやメニューバーが表示されます。



【ヘルプの起動方法】

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 → 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式(.wav) ●WMA形式(.wma) ●MP3形式(.mp3) など

メモ

「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。

1 BeatJamでファイルを再生する

1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
[ライブラリ] 画面が表示されます。



- 2 画面左にある一覧で「すべての曲」をクリックし①、「マイコンピュータ」などで再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②



音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。

プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

 参照 ▶ プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

3 画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②



このとき画面左の「すべての曲」をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

4 [再生] ボタン (▶) をクリックする

選択したトラックが再生されます。

選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

1 ライブラリにファイルを追加する

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

● 音楽CDのトラックをコピーする場合

① [CD] ボタン (CD) をクリックする

[CD] 画面が表示されます。

② 音楽CDをドライブにセットする

自動的に再生が始まったときは、[停止] ボタン (■) をクリックして停止してください。

[Audio CD] 画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

③ 一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック (☑) する

一覧の左下にある ☑ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。☐ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。

④ [曲のビットレート] (132k 105k 66k) で、どのビットレートで録音するかを選択する

ビットレート数が高いほど、良い音質で録音されます。

⑤ [録音] ボタン (録音▶) をクリックする

[CDの録音] 画面が表示され、録音が始まります。

⑥ 録音が終わったら、[閉じる] ボタンをクリックする

曲情報を取り込む

音楽 CD の情報を Gracenote CDDb から取り込むことができます。
Gracenote CDDb については、BeatJam のヘルプを確認してください。
Gracenote CDDb は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDb
で曲の情報を取り込めないときは、[Artist] にアーティスト名や、[Genre] に
ジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

- ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 1、2 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

- 2 [ライブラリ] ボタン () をクリックする

- 3 [編集メニュー] ボタン () をクリックして、表示されるメニューから [プレイリストの新規作成] をクリックする

[プレイリストの一覧] に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。



- 4 新しいプレイリストの名前を入力し、(Enter) キーを押す
プレイリスト名が確定されます。

- 5 追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある [すべての曲] ~ [お好み検索] から選択する

- 6 一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する



(Ctrl) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。(Shift) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

- 7 選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする
プレイリストに曲が追加されます。

3 プレイリストから再生する

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
- 2 画面左の一覧にある [プレイリスト] の中から、聴きたいプレイリストをクリックする
- 3 [再生] ボタン () をクリックする
一覧に表示されている順に再生されます。

2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 「Windows Media Player」のメニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照 ➡ Windows Media Player の操作について「本章 1-①-2 操作画面」

3 [すべての音楽] をクリックする

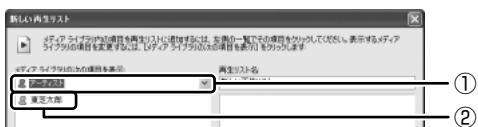


メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②

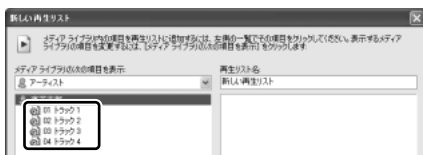


5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

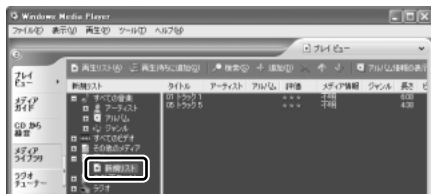


ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグアンドロップ シーディープラスディープイディー

「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。

本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 ➡ CD-RW、CD-Rについて 「1 章 8-② 使用できるCD」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 ➡ 省電力機能について 「5 章 バッテリー駆動」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション など

ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

- フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替えるなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、PRT コネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

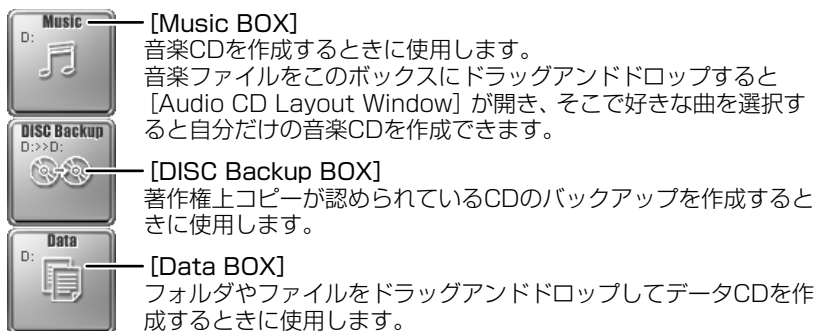
「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



▶ 詳細について『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』

CDに保存されているWMA方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CDトラック情報] には曲情報が表示されています。

4 [ブランクCDサイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する



トラックは複数選択できます。
[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。

6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順5、6を繰り返します。

7 音楽CDを取り出し、未使用のCD-Rをセットする

8 [書き込み] ボタン () をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD Help] をクリックする

「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。



参照 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

1 通知領域の [Drag'n Drop CD + DVD] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

デスクトップ上に表示されていたアイコンが消えます。

4 DVD-Video を観る

本製品のドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「インタービデオ ウィンディーブイディーInterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- CRT やテレビなどの外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示するための設定が必要です。

マルチモニタで DVD-Video を再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、内部液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示するか、拡張表示に設定してください。

 **参照** 表示装置の切り替え「4 章 6-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme\st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

1 起動方法

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。

「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVD ムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

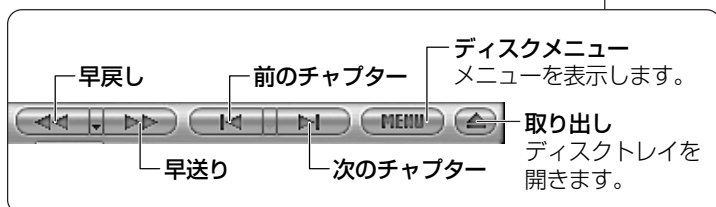
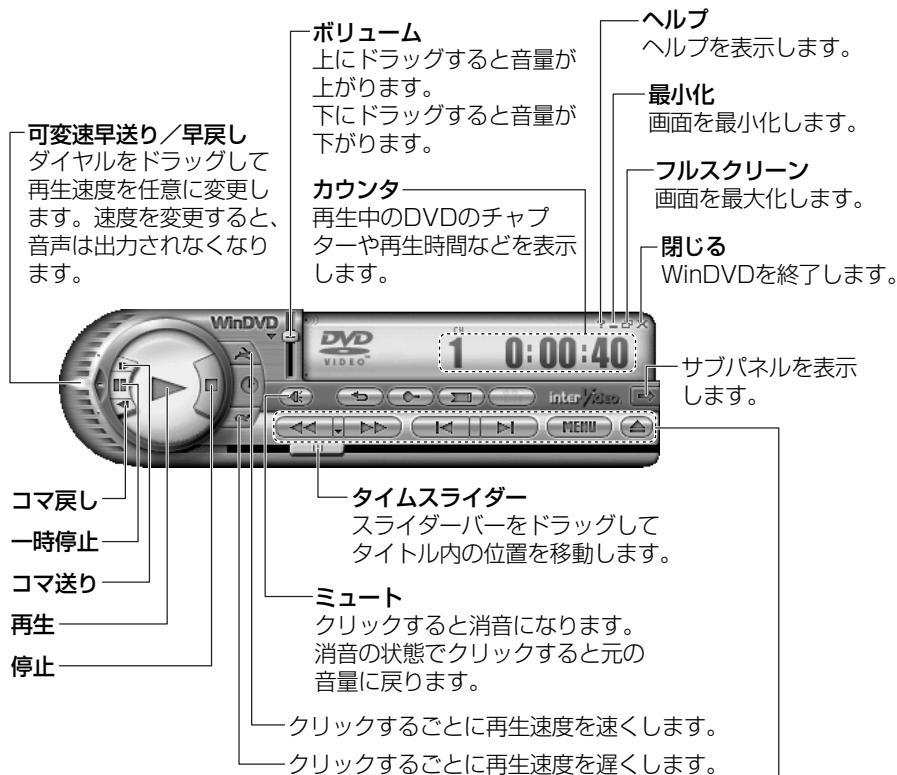


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して
ください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

 参照 テレビの接続、表示装置の切り替え 「4 章 6 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

1 WinDVD コントロールパネルの【ヘルプ】ボタン () をクリックする

 参照 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

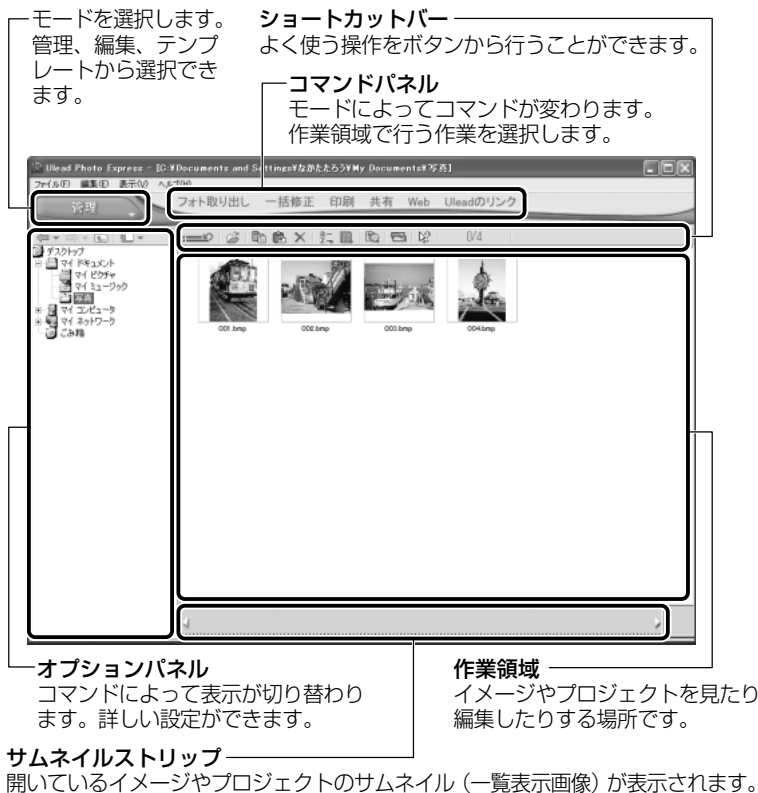
本製品には、画像を編集できるアプリケーション「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)^{ウォーカー ユーリード アイフォト エクスプレス}」が用意されています。

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 デジカメ Walker を使う

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする



2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

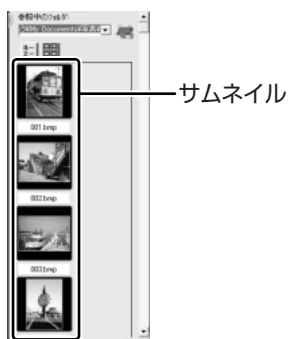
1 【編集】モード（）でコマンドパネルから【フォト取り出し】→【マイコンピュータ】をクリックする

オプションパネルに【参照中のフォルダ】が表示されます。

2 をクリックし、表示されたメニューから編集する写真のあるフォルダをクリックする

オプションパネルにサムネイルが表示されます。

3 編集する画像のサムネイルをクリックし、【開く】ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

4 コマンドパネルから【編集】のメニューをクリックし、画像を加工する

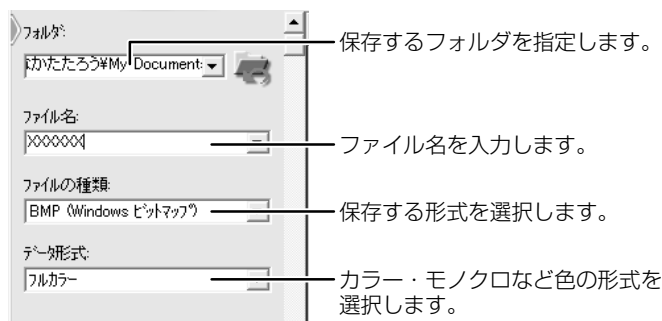
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

1 コマンドパネルから【共有】→【保存】をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



2 【保存】 ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【Ulead iPhoto Express のヘルプ】をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 【スタート】→【すべてのプログラム】→【デジカメ Walker】→【Screenbook】をクリックする

▶ 参照 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 84
 - 2 内蔵モデムについて 91

1 LAN へ接続する

1 LAN へ接続する

本製品には、ブロードバンド対応のLAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタにADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品のLAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタにLAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタにLAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

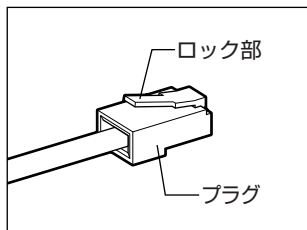
お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルをパソコン本体のLAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

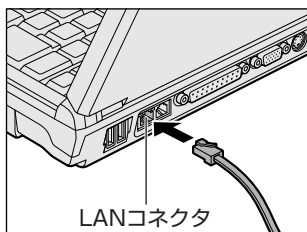
LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときには、必ずカテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときには、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る**2 LAN ケーブルのプラグをパソコン本体のLAN コネクタに差し込む**

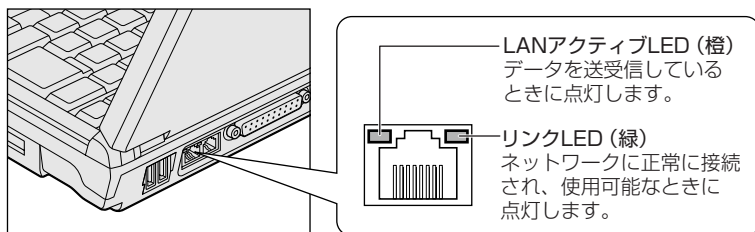
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LAN コネクタの両脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。

**3 Windowsのネットワーク設定**

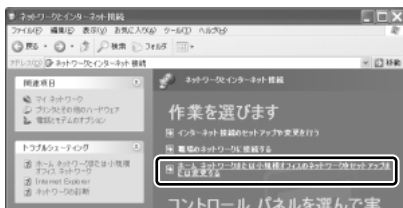
ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



「ネットワークセットアップウィザードの開始」画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2) ネットワーク設定に便利な機能

コンフィグフリー

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windowsを起動すると通知領域にアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

「ConfigFree（ネットワーク診断）」画面が表示されます。

「タスクトレイに常駐する」をチェックすると、通知領域にアイコン（）が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、「次回から表示しない」をチェックし、「閉じる」ボタンをクリックして画面を閉じてください。

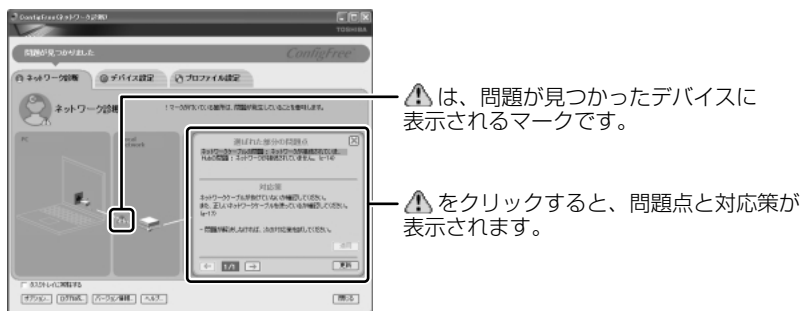
1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

1 通知領域の「ConfigFree」アイコン（）をクリックし、表示されたメニューから「ネットワーク診断」をクリックする

「ConfigFree（ネットワーク診断）」画面が表示されます。

【「ConfigFree（ネットワーク診断）」画面】

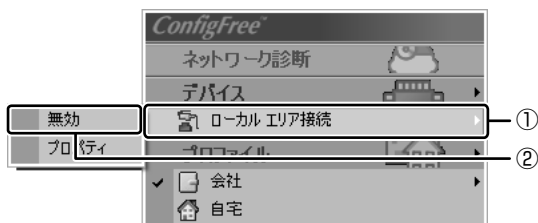


また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明やIPアドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の「ConfigFree」アイコン（)をクリックし、表示されたメニューから有効／無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効／無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【その他のデバイス設定】

「ConfigFree」アイコン（) → 「デバイス」 → 「開く」をクリックすると、「ConfigFree（デバイス設定）」画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え（ケーブル切断）

PC カードタイプなどの無線 LAN 機器を接続した場合のみ使用できます。

「ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます」をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。

- ネットワーク接続

「ネットワーク接続」ボタンをクリックすると「ネットワーク接続」画面が表示され、ネットワーク接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 通知領域の【ConfigFree】アイコン（）をクリックする

メニューが表示されます。

「プロファイル」の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

「ConfigFree」アイコン（）→「プロファイル」→「開く」をクリックすると、「ConfigFree（プロファイル設定）」画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

「追加」ボタンをクリックすると、プロファイル作成の説明画面が表示されるので、内容を確認したら、「OK」ボタンをクリックして画面を閉じてください。「プロファイルの追加」画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

● プロファイルの削除

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

● 自動切り替え（SSID）

PC カードタイプなどの無線 LAN 機器を接続した場合のみ使用できます。

「自動切り替え」ボタンをクリックすると、自動切り替えについての説明画面が表示されるので、内容を確認したら、「OK」ボタンをクリックして画面を閉じてください。「自動切り替え」画面が表示されます。「自動切り替え（SSID）」タブで「自動切り替え（SSID）」をチェックしてください。

接続した無線 LAN ネットワーク（SSID）の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90 以外の場合は、最大 33.6kbps で接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年10月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [Modem Region Select] をクリックする

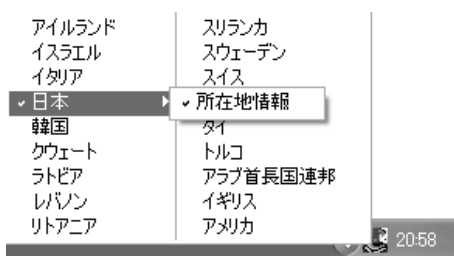
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

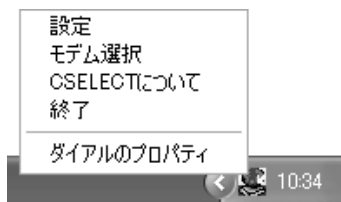
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けた方や各種設定について説明しています。

1	周辺機器について	96
2	フロッピーディスクドライブを接続する	98
3	PC カードを接続する	105
4	USB 対応機器を接続する	108
5	プリンタを接続する	110
6	テレビを接続する	112
7	外部ディスプレイを接続する	117
8	その他の機器を接続する	118
9	メモリを増設する	121

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- マウス（本製品では同梱）
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 参照 周辺機器の接続場所について「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

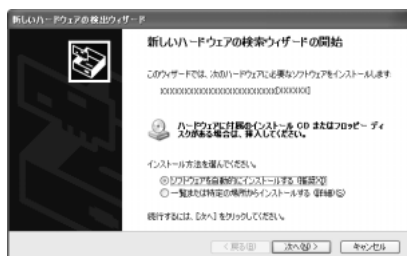
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

「ハードウェアの追加ウィザード」を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

「ハードウェアの追加ウィザード」は、次のように起動します。

- ① 「コントロールパネル」を開き、「プリンタとその他のハードウェア」をクリックする
- ② 「関連項目」の「ハードウェアの追加」をクリックする

2 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱の USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

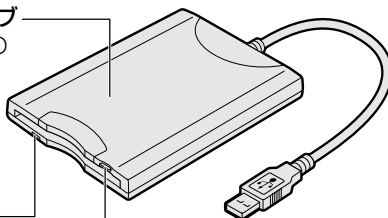
- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LED が点灯しているとき）に電源を切ったり、USB ケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 4 USB 対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

役立つ 操作集

パソコンをフロッピーディスクドライブから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。フロッピーディスクドライブから起動したい場合、次の方法で変更できます。

- ① 電源を入れた直後（起動時）に **(F12)** キーを押す
- ② **(↑)** または **(↓)** キーで、[3. 取外し可能なデバイス] を選択し、**(Enter)** キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには 3 種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1 枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

 フォーマットについて「本節 ③ フロッピーディスクを使う前に」

ソニー（株）製の 3.5 型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

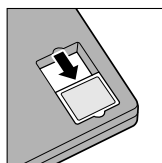
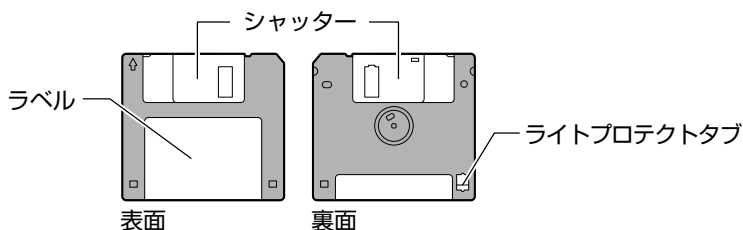
2 [3.5 インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

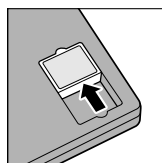
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HD タイプのフロッピーディスクのみです。2HD タイプのフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前に Windows でフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOS の起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

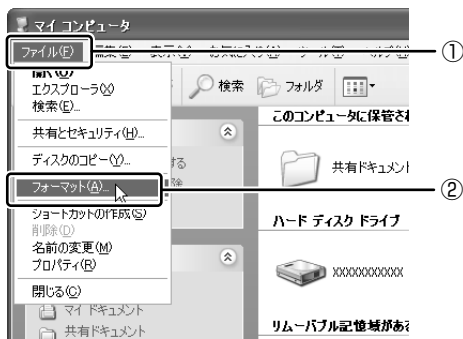
3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3  3.5 インチ FD (A:) をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、【クイックフォーマット】をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面で【閉じる】ボタン (X) をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ピーシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード ● SCSI カード ● 無線 LAN カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1 PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

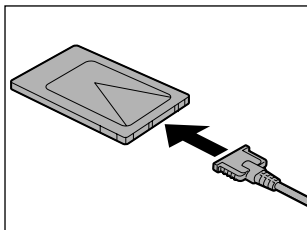
- ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

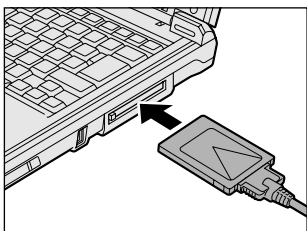
1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける



SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要
なときに行います。

2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで
押してください。きちんと奥まで差し込ま
れていない場合、PC カードを使用できな
い、または PC カードが壊れる場合があり
ます。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認して
ください。

2 取りはずし

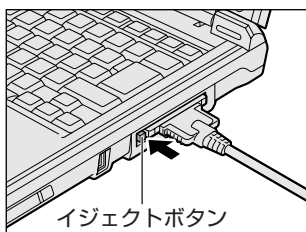
お願い

取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していな
いことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

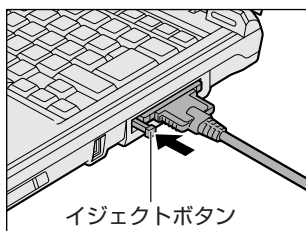
- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



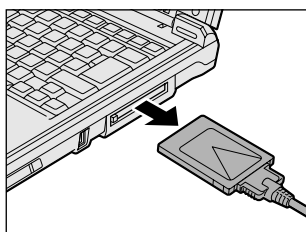
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

4 USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

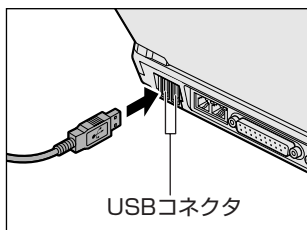
お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

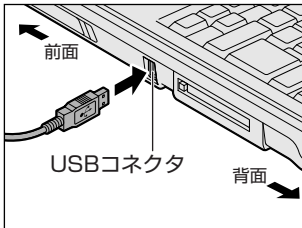
1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

【背面】



プラグの向きを確認して差し込んでください。

【右側面】

**2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む**

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし**お願い**

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタン () をクリックする

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

5 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

 参照 USB 対応機器について「本章 4 USB 対応機器を接続する」

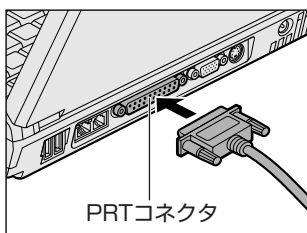
1 プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

1 プリンタケーブルのプラグをパソコン本体の PRT コネクタに差し込む



2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

2 プリンタの設定

【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると「プリンタの追加ウィザード」画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は「プリンタの追加ウィザード」を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

〔プリンタの追加ウィザード〕は、次のように起動します。

- ①〔コントロールパネル〕を開き、〔プリンタとその他のハードウェア〕をクリックする
- ②〔プリンタを追加する〕をクリックする

【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

1 BIOS セットアップを起動する

 参照 BIOS セットアップの起動方法「7章 2-①-1 起動方法」

2 〔詳細〕メニューの〔モード〕を使用するプリンタにあったモードに設定する

- ノーマルモード 出力専用モードを使用する周辺機器を接続する場合に設定します。
- 双方向（標準値）... 双方向に設定します。大半のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。
- ECP ECP に対応しています。プリンタポートが双方向の設定において、ECP プリンタで障害が発生した場合には ECP 設定に変更してください。
- EPP EPP 規格の周辺機器を接続する場合に設定します。

3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

6 テレビを接続する

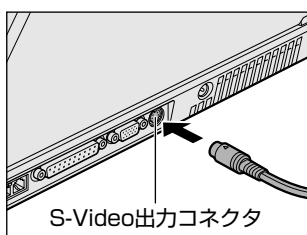
本製品の S-Video 出力コネクタとテレビを S 端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

S-Video 出力コネクタは、ワイドテレビでアスペクト比（画面の縦・横の比）の異なった映像を自動的に識別する機能を持つ接続端子です。

接続する S 端子ケーブルは、4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S-Video 出力コネクタに差し込む



- 2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S1/S2 映像入力端子に差し込む

音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法 1—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

2 [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [Intel(R) Extreme Graphics] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする

5 [デバイス] タブで表示する装置と形式を選択する



✓ がついているアイコンが現在の表示です。

変更するときは左側の表示装置のアイコンをクリックしたあと、形式を選択します。

● 内部液晶ディスプレイだけに表示

[ノートブック] アイコンをクリックしてください。

● テレビだけに表示

[テレビ] アイコンをクリックしてください。

● 外部ディスプレイだけに表示

[PC モニタ] アイコンをクリックしてください。

● Clone 表示

2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする

② 表示に合わせた設定をする

項 目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイとテレビで Clone 表示	ノートブック	テレビ * 1
テレビと外部ディスプレイで Clone 表示	テレビ	PC モニタ

* 1 [PC モニタ] を選択すると内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイで Clone 表示できます。

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

① [拡張デスクトップ] アイコンをクリックする

[拡張デスクトップ] アイコンが表示されていない場合は、 ボタンをクリックしてください。

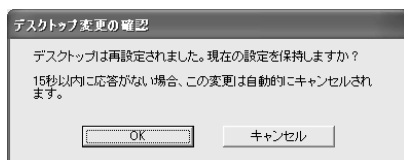
② 表示に合わせた設定をする

項 目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと テレビで拡張表示	ノートブック	テレビ * 1
テレビと外部ディスプレイで 拡張表示	テレビ	PC モニタ

* 1 [PC モニタ] を選択すると内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示できます。

6 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



7 [OK] ボタンをクリックする

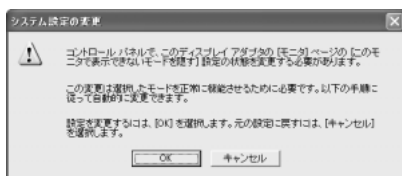
8 [OK] ボタンをクリックする

9 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

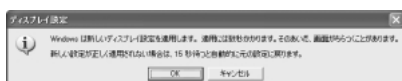
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

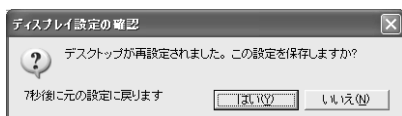
● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法2— (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn) キーを押したまま、(F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒間押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。



* 画面はテレビと外部ディスプレイを接続した場合です。接続している表示装置のアイコンのみ表示されます。

- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶のディスプレイと外部ディスプレイの同時表示
外部ディスプレイが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。

- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
テレビが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- TV テレビだけに表示
テレビが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。

「方法 1」で [拡張表示] に設定した場合は、**(Fn)+(F5)** キーで表示装置を切り替えられません。「方法 1」の手順で表示装置を切り替えてください。また、複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows のログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え] で切り替えた場合は、**(Fn)+(F5)** キーで表示装置を切り替えられません。

 ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4 章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んである S 端子ケーブルを抜く

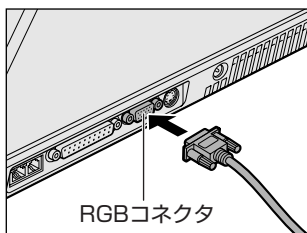
7 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する（初期設定）
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する
- 拡張表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合とあわせて説明しています。

参照 → テレビ接続について「本章 6-2 テレビに表示する」

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 → ビデオモードについて「付録 1-2 サポートしているビデオモード」

8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1 マイクロホン

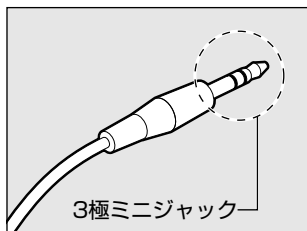
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

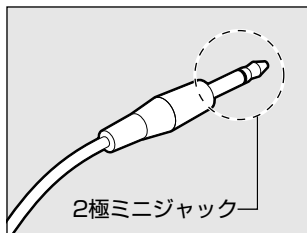
参照 → サウンド機能について「1 章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で可以使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

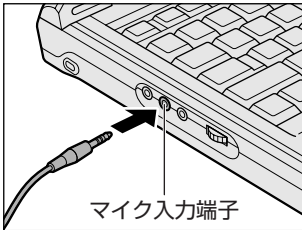
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 → 「LaLaVoice」について《サイバーサポート》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・ パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について「1 章 7 サウンド機能」

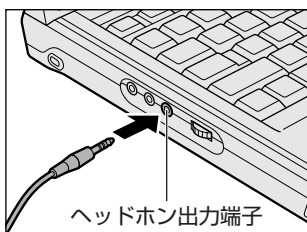
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

3 オーディオ機器

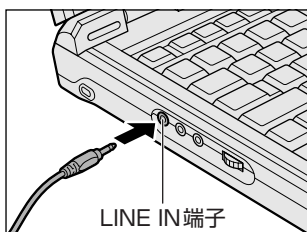
LINE IN 端子には、オーディオ機器を接続できます。

1 LINE IN端子への接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

1 オーディオケーブルのプラグをパソコン本体の LINE IN 端子に差し込む



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

取りはずすときは、LINE IN 端子からオーディオケーブルのプラグを抜きます。

2 オーディオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE OUT 端子に差し込む

9 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットA（下段）はすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットB（上段）に取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

増設メモリは、本製品で動作が保証されている次のものを使用してください。

容量	型番
128MB	PAME128X（タイプX）
256MB	PAME256X（タイプX）
512MB	PAME512X（タイプX）
1 GB	PAME1001（タイプ1）

動作確認されている上記以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

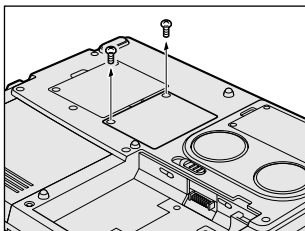
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

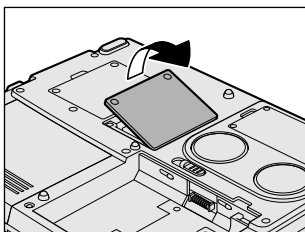
参照 バッテリーパックの取りはずし

「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

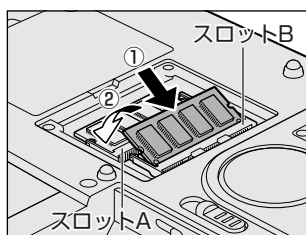
4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす



5 増設メモリカバーをはずす



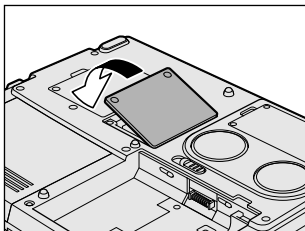
6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

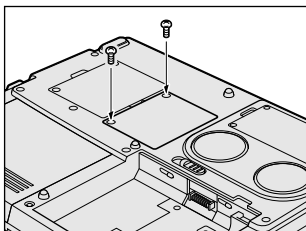
イラストはスロット B への取り付け例です。

7 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4ではずしたネジ2本でとめる



9 バッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーパックの取り付け「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

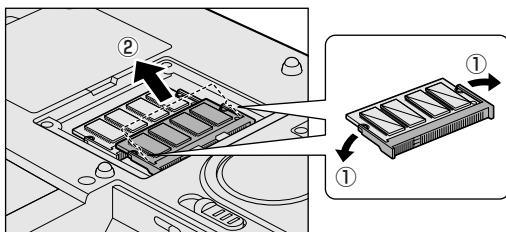
参照 バッテリーパックについて「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす

5 増設メモリカバーをはずす

6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロット A、上段がスロット B です。イラストはスロット B からの取りはずし例です。



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

7 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる

9 バッテリーパックを取り付ける

参照 ➡ バッテリーパックの取り付け「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ➡ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「システム情報」で確認することができます。

「システム情報」では、オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類についても確認できます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする



5 章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 128
 - 2 省電力の設定をする 135
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 142

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー (TOSHIBA バッテリーパック:PABAS031) をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

警告

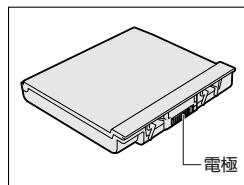
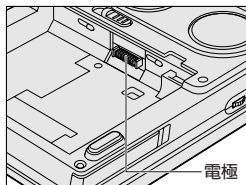
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

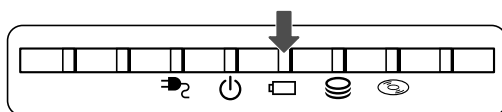


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・ バッテリーが接続されていない（ACアダプタ使用中） ・ バッテリー異常または充電停止（ACアダプタ使用中）

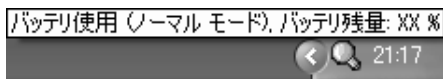
バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

参照 → バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」

2 通知領域の「省電力」アイコンで確認する

通知領域の「省電力」アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。



 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や「省電力」アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの「アラーム」タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすメッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	約 24 時間
電源 OFF (Power  LED が消灯)	約 24 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10 ～ 30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

状態	充電時間
電源 ON	約 4 ～ 12 時間以上
電源 OFF	約 4 時間

注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合、高度な処理を要するソフトウェアを使用している場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【 使用できる時間 】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 2.5 時間

【 バッテリー駆動時の処理速度 】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス処理など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

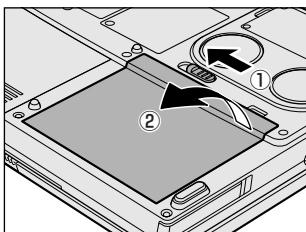
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

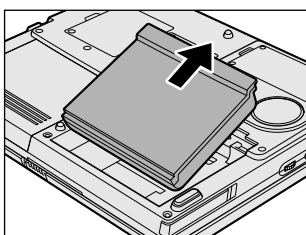
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ・リリースラッチを奥までスライドさせる①

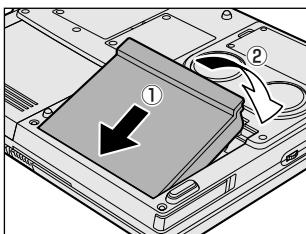


バッテリーパックが持ち上がります②。

5 バッテリーパックをパソコン本体から取り出す



6 交換するバッテリーパックをコネクタの位置に合わせて斜めに挿入し①、静かに差し込む②



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。

バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力ユーティリティ] 画面が表示されます。

2 【省電力】タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリー使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD 再生	性能と消費電力を両立して DVD の再生などに適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 6 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【 省電力モードの作成 】

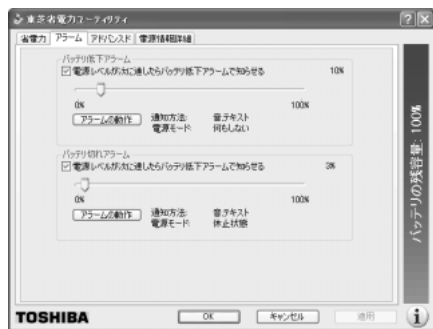
- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[コピー 〜] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【 省電力モードの削除 】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
直前に行った削除をキャンセルするときは、[元に戻す] ボタンをクリックします。[キャンセル] ボタンでは元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

3 【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。



4 【アドバンスド】 タブ

省電力アイコンの通知領域への表示、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。



【オプション】

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

チェックする (☒) と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【 休止状態から復帰するときにパスワードを求める 】

チェックする (☒) と、Windows のパスワードを設定している場合には、休止状態から復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

購入時はチェックされています。

【 休止状態をサポートする 】

チェックする (☒) と、休止状態を有効にします。

【 ポータブルコンピュータのふたを開いたとき、自動的に復帰する 】

〔電源ボタン〕の〔コンピュータを閉じたとき〕で〔スタンバイ〕または〔休止状態〕に設定したときに選択できます。

チェックする (☒) と、ディスプレイを閉じて作業を中断した場合、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

バッテリー駆動時に休止状態になった場合、この項目をチェックしていても、ディスプレイを開いて自動的に復帰させることはできません。電源スイッチを押して復帰させてください。

【電源ボタン】

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。
Disk  LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

【何もしない】

バックライトを OFF にし、その他は何も変更しないように設定します。

【スタンバイ】

スタンバイになるように設定します。

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

自動的にスタンバイが実行されるとき

購入時の設定のまま、AC アダプタを電源に接続して 30 分以上放置した場合、システムはスタンバイを実行します。

この場合、スタンバイからの復帰時に、ネットワーク関係のアプリケーションが正常に動作しないことがあります。その場合は、もう 1 度ネットワークにログインし直してください。「東芝省電力ユーティリティ」でスタンバイを無効に設定しておく、自動的にスタンバイが実行されることはありません。

ただし、設定を変更すると国際エネルギースタープログラム規格の基準を満たせなくなります。

【休止状態】

休止状態になるように設定します。

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（「休止状態をサポートする」がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

5 【電源情報詳細】 タブ

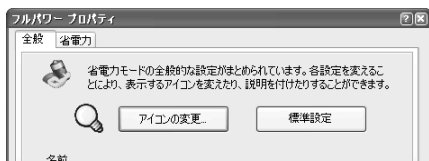
バッテリー残量などのバッテリー情報を表示します。バッテリー残量は目安です。



6 省電力モードの詳細設定

1 【2】 の【省電力】 タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】 ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、CPU の処理速度、内部液晶ディスプレイの輝度、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、スタンバイや休止状態までの時間を設定します。[バッテリー使用中] の場合は、バッテリー残容量が 0 ～ 25%、26 ～ 50%、51 ～ 75%、76 ～ 100% の状態ごとに、各項目を設定できます。

CPU やシステムの状態によっては、設定された時間どおりに移行しない場合があります。

7 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 複数のユーザで使用する場合
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中にバッテリーパックを取りはずさないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
また、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切った後、もう1度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリおよび周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power ㏻ LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

(Fn) + (F3)キーを使ってスタンバイを実行することもできます。

参照 → 詳細について「1 章 3-④ 東芝ホットキーユーティリティ」

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アドバンスド] タブの [オプション] で [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift)キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

メモ

(Fn) + (F4)キーを使って休止状態を実行することもできます。

 詳細について「1章 3-4 東芝ホットキーユーティリティ」

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

〔スタート〕メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 2-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アドバンスド] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 2-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする

-
- ③ [アドバンスド] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] [休止状態] [スタンバイ] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
 - ④ ③で [スタンバイ] [休止状態] に設定し、ディスプレイを開いたときに閉じる前の状態を再現する場合は、[ポータブルコンピュータのふたを開いたとき、自動的に復帰する] をチェックする
 - ⑤ [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定し、手順 1 の④を設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

6 章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 148
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 149

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

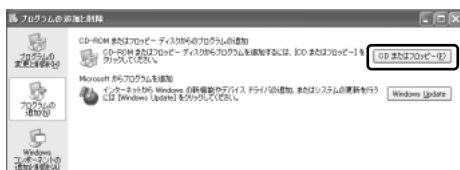
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。ここでは「プログラムの追加と削除」からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で「プログラムの追加と削除」を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「 プログラムの追加と削除」をクリックする
- 3 「プログラムの追加」ボタン () をクリックする
- 4 「CD または フロッピー」ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションDVD-ROMから、再インストールして使用することができます。



参照 再インストールについて

『困ったときは 4 章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 152
 - 2 BIOS セットアップを使う 153

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「デバイスマネージャ」「東芝省電力ユーティリティ」などがあります。

 参照 東芝省電力ユーティリティについて「5 章 2 省電力の設定をする」

BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 BIOS セットアップを使う

バイオス
BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続コネクタ）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に **(F2)** キーを押す

起動時に、「dynabook」画面が表示されます。

目安として、この画面表示中に **(F2)** キーを押します。

パスワードを設定している場合は、登録したパスワードを入力し、**(Enter)** キーを押してください。

参照 ➡ パスワードについて「本節 ② パスワードの設定」

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 1 をやり直してください。

2 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューを選択する	(←)または(→) 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
変更したい項目を選択する	(↑)または(↓) 画面の中で反転している部分が現在変更できる項目です。
サブメニューや設定値の一覧を表示する	(Enter)
項目の内容を変更する	(Space)、(F5)、(F6)
設定内容を標準値にする	(F9) 「デフォルト値をロードしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、(Enter)キーを押してください。 パスワードはこの操作をしても削除されません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	(F10) 「設定の変更を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。保存する場合は「はい」、保存しない場合は「いいえ」を選択し、(Enter)キーを押してください。 BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。
[終了] メニューを表示する	(Esc) サブメニュー表示中は 1 つ前の画面に戻ります。
BIOS セットアップのヘルプを表示する	(F1)

以上のキー操作で、各項目を設定してください。

3 終了方法

- 1 [終了] メニューを表示する
- 2 終了方法を選択する
- 3 **(Enter)** キーを押す

BIOS セットアップが終了し、Windows が起動します。

2 パスワードの設定

パスワードは、BIOS セットアップの [セキュリティ] メニューで設定します。パスワードには、BIOS セットアップの使用を制限するパスワードと、パソコンの起動を制限するパスワードの2種類あります。パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 BIOS セットアップの使用を制限する

BIOS セットアップの使用を制限するパスワードには、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの2種類あります。

- ・ スーパーバイザパスワード
BIOS セットアップの項目を設定（変更）できます。
- ・ ユーザパスワード
BIOS セットアップの設定内容の確認はできますが、設定（変更）できる項目には制限があります。

【登録】

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [セキュリティ] メニューを表示する
パスワードが登録されている場合は、[ユーザパスワードは] または [スーパーバイザパスワードは] に「設定」と表示されます。
- 3 カーソルバーを [ユーザパスワード設定] または [スーパーバイザパスワード設定] に合わせ、**(Enter)** キーを押す

スーパーバイザパスワードが設定されていないと、ユーザパスワードの設定はできません。

パスワード設定画面が表示されます。

4 [新しいパスワードを入力して下さい。] にパスワードを入力する

パスワードは8文字以内で入力します。

入力したパスワードはセキュリティ保護のため、表示されません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

パスワードに使用できる文字は、次のとおりです。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	- ^ @ [] ; : . , / （スペース）
使用できない文字	・ 全角文字（2バイト文字） ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない（入力するときに<code>[Shift]</code>キーなどを使用する）文字 【例】<code> </code>（バーチカルライン）、<code>&</code>（アンド）、<code>~</code>（チルダ） など ・ <code>¥</code>（エン） <code>¥</code> キーや <code>ろ</code> キーを押すと<code>¥</code>が入力されます。	

5 `[Enter]` キーを押す

[新しいパスワードを確認して下さい。] にカーソルバーが移動します。

6 もう1度新しいパスワードを入力する

パスワードは手順4と同じパスワードを入力してください。

7 `[Enter]` キーを押す

[セットアップ通知] 画面が表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。

`[Enter]` キーを押して、手順4からやり直してください。

8 `[Enter]` キーを押す

パスワードが設定され、登録した [ユーザパスワードは] または [スーパバイザパスワードは] に「設定」と表示されます。

メモ

ここで設定したパスワードは、パソコンまたはBIOSセットアップを起動する場合に使用します。インスタントセキュリティ状態を解除する場合はWindowsのログオンパスワードを使用します。

【変更／削除】

1 BIOS セットアップを起動する

パスワード入力画面が表示されます。

2 パスワードを入力し、(Enter)キーを押す

スーパーバイザパスワードを変更／削除する場合は、スーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードを入力すると、変更／削除できるのはユーザパスワードのみです。

3 [セキュリティ] メニューを表示する

4 カーソルバーを、削除する [ユーザパスワード設定] または [スーパーバイザパスワード設定] に合わせ、(Enter)キーを押す

5 [現在のパスワードを入力して下さい。] に登録してあるパスワードを入力する

パスワードは画面で確認できません。

6 (Enter)キーを押す

入力したパスワードが登録されているパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。(Enter)キーを押してもう1度入力してください。

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの入力ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

7 [新しいパスワードを入力して下さい。] に新しいパスワードを入力する

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

8 (Enter)キーを押す

9 [新しいパスワードを確認して下さい。] に手順7と同じパスワードを入力する

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

入力したパスワードが手順7で入力したパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。(Enter)キーを押して手順7からやり直してください。

10 (Enter)キーを押す

[セットアップ通知] 画面が表示されます。

11 (Enter)キーを押す

パスワードが変更されます。

新しいパスワードを入力しなかった場合はパスワードが削除され、[ユーザパスワードは] または [スーパーバイザパスワードは] に「クリア」と表示されます。

スーパーバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

2 パソコンの起動を制限する

パソコン起動時にパスワードの入力を求めるように設定できます。

あらかじめスーパーバイザパスワードの設定をしてください。

1 BIOS セットアップを起動する

パスワード入力画面が表示されます。

2 スーパーバイザパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

3 [セキュリティ] メニューを表示する

4 カーソルバーを[起動時のパスワード]に合わせ、(Enter)キーを押す

5 [使用する]を選択し、(Enter)キーを押す

3 パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、パソコンまたは BIOS セットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。

この場合は、次の手順を行ってパソコンまたは BIOS セットアップを起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

BIOS セットアップの設定を変更する場合は、スーパーバイザパスワードを入力して起動してください。ユーザパスワードを入力して起動すると、変更できる項目に制限があります。

4 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

付録

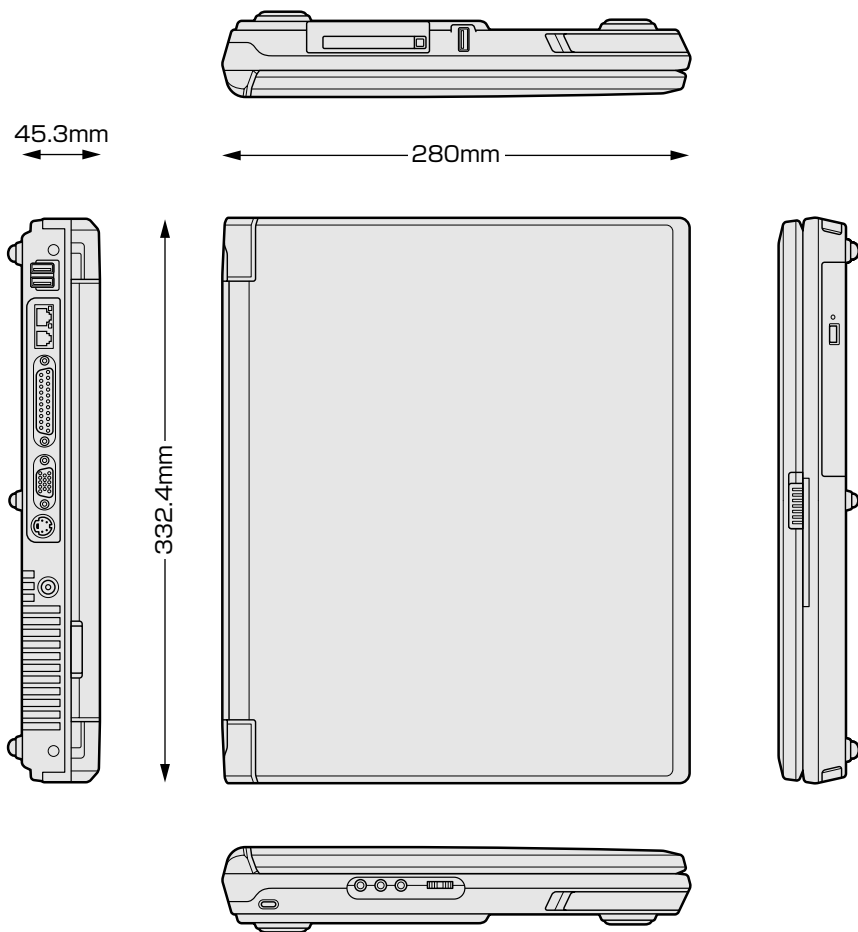
本製品について、外形などのハードウェア仕様や、
技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 162
 - 2 技術基準適合について 165

1 本製品の仕様

1 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1 章 5-①-1 表示可能色数」

本製品では次のビデオモードをサポートしています。

16ビット色 (65,536色)		32ビット色 (1,677万色)	
解像度(ドット)	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)	リフレッシュレート(Hz)
800 x 600	60/75/85/100	800 x 600	60/75/85/100
1024 x 768	60/75/85/100	1024 x 768	60/75/85/100
1280 x 1024	60/75/85	1280 x 1024	60/75/85
1400 x 1050	60/75/85	1400 x 1050	60/75/85
1600 x 1200	60/75/85	1600 x 1200	60/75/85
1920 x 1440	60	1920 x 1440	60

注 1) リフレッシュレートは外部ディスプレイのみに適応

注 2) 内部液晶ディスプレイでは、1024 x 768 を超える高解像度表示は仮想ディスプレイでの対応となります。

注 3) 1,677 万色はディザリング表示です。

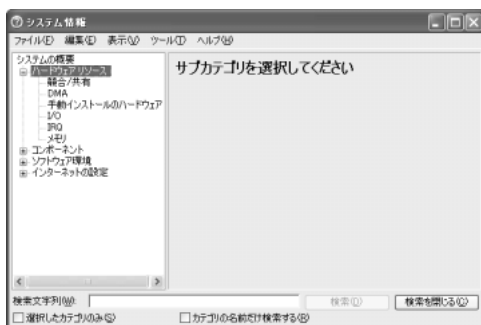
注 4) 1,677 万色設定での内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイによる同時表示の場合、外部ディスプレイの最大解像度は 1024 x 768 までになります。

3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
I/O ポートマップ : [I/O]
IRQ 使用リソース : [IRQ]
DMA 使用リソース : [DMA]

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照 省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook ES series

Model number : PSA30

PAES425CME

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ☐ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ☐ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ☐ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ☐ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, USB connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PAES***** conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hamfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A02-0604JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003 年 10 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

 参照 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 NOTICE :** The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC

Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:

 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

TEAC CD-RW / DVD-ROM ドライブ DW-224E (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用してい

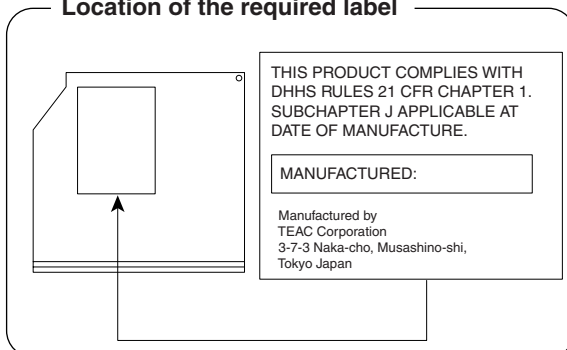
CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

ます。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CAUTION	INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA750 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

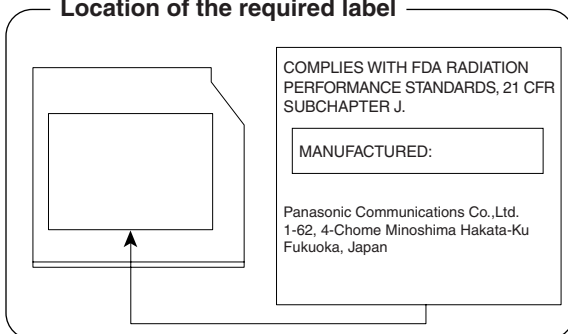
CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESIN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



東芝 CD-RW / DVD-ROM ドライブ SD-R2412 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格

EN60825 で “クラス 1 レーザー機器” に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス 1 レーザー製品

DANGER

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER
EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION
DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

注 意

ここを開くと可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

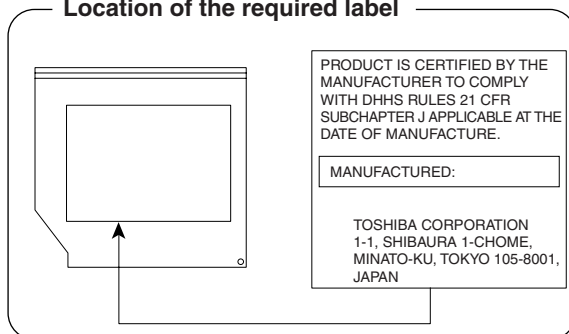
VARO!

NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO
SÄTEESEEN.

VARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

Location of the required label



総合さくいん

(記号)	.NET Passport	『基本をマスター』 120
	 キー	『応用ガイド』 22
	 キーを使ったショートカットキー	『応用ガイド』 27
(A)	AC アダプタの仕様	『応用ガイド』 19
	Alt キー	『応用ガイド』 22, 23
	Arrow Mode LED	『応用ガイド』 23, 24
(B)	BackSpace キー	『応用ガイド』 23
	Battery LED	『応用ガイド』 21
	BCC	『基本をマスター』 82
	BeatJam	『応用ガイド』 58
	BIOS セットアップ	『応用ガイド』 153
(C)	Caps Lock LED	『応用ガイド』 22, 24
	Caps Lock 英数キー	『応用ガイド』 22
	CC	『基本をマスター』 82
	CD-ROM LED	『応用ガイド』 21
	CD のセット	『基本をマスター』 16
	CD の取り扱い	『応用ガイド』 54
	CD の取り出し	『基本をマスター』 17
	ConfigFree	『応用ガイド』 86
	Ctrl キー	『応用ガイド』 22, 23
	CyberSupport for TOSHIBA	『困ったときは』 14
(D)	DC IN LED	『応用ガイド』 21
	Del キー	『応用ガイド』 23
	Disk LED	『応用ガイド』 21
	DMA 使用リソース	『応用ガイド』 164
	Drag'n Drop CD + DVD	『応用ガイド』 69
		『困ったときは』 33
	DVD-Video を観る	『応用ガイド』 73
	DVD のセット	『基本をマスター』 16
	DVD の取り扱い	『応用ガイド』 54
	DVD の取り出し	『基本をマスター』 17
	dynabook.com (サポート情報)	『困ったときは』 20
(E)	Enter キー	『応用ガイド』 23
	Esc キー	『応用ガイド』 22

(F)	Fn キー	『応用ガイド』 22
	Fn キーを使った特殊機能キー	『応用ガイド』 25
(H)	Home Style+	『基本をマスター』 105
	HTML 形式	『基本をマスター』 79
(I)	I/O ポートマップ	『応用ガイド』 164
	IME パッド	『基本をマスター』 34
	Ins キー	『応用ガイド』 23
	Internet Explorer	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer 画面	『基本をマスター』 59
	Internet Explorer の起動	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer の終了	『基本をマスター』 60
	InterVideo WinDVD	『応用ガイド』 73
	IRQ 使用リソース	『応用ガイド』 164
(L)	LAN ケーブルの接続	『応用ガイド』 84
	LAN コネクタ	『応用ガイド』 17
	LAN コネクタに関するインジケータ	『応用ガイド』 85
	LAN へ接続する	『応用ガイド』 84
	LINE IN 端子	『応用ガイド』 16
(M)	Microsoft IME スタンダードのプロパティ	『基本をマスター』 26
	MS-DOS の起動ディスクを作成する	『応用ガイド』 102
(N)	Norton AntiVirus	『困ったときは』 29
	Norton Internet Security	『困ったときは』 28
	Numeric Mode LED	『応用ガイド』 23, 24
(O)	Outlook 2003	『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 画面	『基本をマスター』 99
	Outlook 2003 の起動	『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 の終了	『基本をマスター』 104
	Outlook 2003 のバックアップ	『困ったときは』 43
	Outlook Express	『基本をマスター』 74
	Outlook Express 画面	『基本をマスター』 75
	Outlook Express の起動	『基本をマスター』 74
	Outlook Express の終了	『基本をマスター』 76
	Outlook Express のバックアップ	『困ったときは』 40

(P)	PadTouch	『応用ガイド』 36
	Pause キー	『応用ガイド』 23
	PC カードスロット	『応用ガイド』 17
	PC カードの取り付け	『応用ガイド』 106
	PC カードの取りはずし	『応用ガイド』 106
	PC カードを接続する	『応用ガイド』 105
	Power LED	『応用ガイド』 21
	PrtSc キー	『応用ガイド』 23
	PRT コネクタ	『応用ガイド』 17
(R)	RGB コネクタ	『応用ガイド』 17
(S)	Shift キー	『応用ガイド』 22, 23
	Space キー	『応用ガイド』 22
	S 端子ケーブルの取り付け	『応用ガイド』 112
	S 端子ケーブルの取りはずし	『応用ガイド』 116
(T)	Tab キー	『応用ガイド』 22
	TFT 方式カラー液晶ディスプレイ	『応用ガイド』 39
(U)	USB コネクタ	『応用ガイド』 17
	USB 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 108
	USB 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 109
	USB 対応機器を接続する	『応用ガイド』 108
(W)	Windows Media Player	『応用ガイド』 58
(ア)	宛先	『基本をマスター』 82
	アドレス	『基本をマスター』 61
	アドレス帳のバックアップ (Outlook Express)	『困ったときは』 41
	アドレス帳を使う (Outlook Express)	『基本をマスター』 94
	アプリケーション CD-ROM	『困ったときは』 67, 74
	アプリケーション DVD-ROM	『困ったときは』 67, 74
	アプリケーションキー	『応用ガイド』 23
	アプリケーションを起動する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを削除する	『応用ガイド』 149
	アプリケーションを終了する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを追加する	『応用ガイド』 148
	アロー状態	『応用ガイド』 24
	アンインストール	『応用ガイド』 149

(イ)	イジェクトホール	『基本をマスター』 18
	イジェクトボタン	『基本をマスター』 18
	インスタントセキュリティ機能	『応用ガイド』 25
	インストール	『応用ガイド』 148
	インターネット接続を終了する	『基本をマスター』 56
	インターネットに接続する	『基本をマスター』 55
	インターネットへの接続について	『基本をマスター』 46
(ウ)	ウィンドウ	『基本をマスター』 19
	ウィンドウズキー	『応用ガイド』 22
	ウィンドウの大きさを変える	『基本をマスター』 20
	ウィンドウを移動する	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを閉じる	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを開く	『基本をマスター』 20
(エ)	英数字を入力する	『基本をマスター』 30
	液晶ディスプレイの取り扱い	『応用ガイド』 46
(オ)	オーディオ機器の接続	『応用ガイド』 120
	オーバーレイキー	『応用ガイド』 23
	大文字ロック状態	『応用ガイド』 24
	[お気に入り] からホームページを表示する	『基本をマスター』 65
	[お気に入り] に登録する	『基本をマスター』 63
	[お気に入り] のバックアップ	『困ったときは』 39
	[お気に入り] を整理する	『基本をマスター』 66
	オプションの設定 (Outlook 2003)	『基本をマスター』 101
	オプションの設定 (Outlook Express)	『基本をマスター』 77
	オリジナル音楽 CD を作る	『応用ガイド』 69
	音楽 CD を聴く	『応用ガイド』 58
	音楽ファイルを聴く	『応用ガイド』 62
(カ)	海外でインターネットに接続する	『応用ガイド』 91
	外形寸法図	『応用ガイド』 162
	回線切換器	『応用ガイド』 91
	外部ディスプレイの接続	『応用ガイド』 117
	書き込み可能状態	『応用ガイド』 101
	書き込み禁止状態	『応用ガイド』 101
	カタカナ／ひらがなキー	『応用ガイド』 23
	カタカナを入力する	『基本をマスター』 28

型番	『応用ガイド』 18
カテゴリ	『応用ガイド』 84
かな入力	『基本をマスター』 25
壁紙を変える	『応用ガイド』 40
漢字を入力する	『基本をマスター』 27
(キ) キーシフトインジケータ	『応用ガイド』 24
キーボード	『応用ガイド』 22
キーボードの取り扱い	『応用ガイド』 29
記号を入力する	『基本をマスター』 29
休止状態	『応用ガイド』 139, 144
(ク) クイックフォーマット	『応用ガイド』 102
クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
.....	『応用ガイド』 31
クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
くるくる壁紙チェンジャー	『応用ガイド』 40
(コ) ごみ箱	『基本をマスター』 42
コントロールパネル	『困ったときは』 22
(サ) 再起動	『困ったときは』 25
最小化	『基本をマスター』 22
[最小化] ボタン	『基本をマスター』 19
再セットアップ	『困ったときは』 66
最大化	『基本をマスター』 22
[最大化] ボタン	『基本をマスター』 19
サイバーサポート	『困ったときは』 14
サウンド機能	『応用ガイド』 48
(シ) システムインジケータ	『応用ガイド』 16, 21
システム環境の変更	『応用ガイド』 152
知っておきたいマナー	『基本をマスター』 106
周辺機器について	『応用ガイド』 96
受信したメールを見る (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
受信したメールを見る (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
使用できる CD	『応用ガイド』 51
使用できる DVD	『応用ガイド』 53
使用できるフロッピーディスク	『応用ガイド』 100

	使用できるマイクロホン	『応用ガイド』 118
	使用できるメディア	『応用ガイド』 50
	署名を入れる (Outlook Express)	『基本をマスター』 83
(ス)	数字ロック状態	『応用ガイド』 24
	スクロール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	スクロール (マウス)	『基本をマスター』 14
	スクロールバー	『基本をマスター』 19
	スクロールボタン	『応用ガイド』 16
	スタンバイ	『応用ガイド』 139, 143
	スピーカ	『応用ガイド』 16, 17
(セ)	静電気について	『応用ガイド』 122
	セキュリティロック・スロット	『応用ガイド』 16
(ソ)	操作メニュー	『基本をマスター』 19
	増設メモリスロット	『応用ガイド』 18
	増設メモリの取り付け	『応用ガイド』 122
	増設メモリの取りはずし	『応用ガイド』 124
(タ)	タイトルバー	『基本をマスター』 19
	タッチパッド	『基本をマスター』 8
		『応用ガイド』 16, 30
	タッピング	『応用ガイド』 31
	ダブルクリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
		『応用ガイド』 31
	ダブルクリック (マウス)	『基本をマスター』 13
(ツ)	ツールバー	『基本をマスター』 19
	通知領域	『基本をマスター』 22
	通風孔	『応用ガイド』 17, 18
(テ)	ディストレイ LED	『基本をマスター』 18
	ディザリング表示	『応用ガイド』 39
	ディスプレイ	『応用ガイド』 16, 39
	ディスプレイ開閉ラッチ	『応用ガイド』 16
	テキスト形式	『基本をマスター』 79
	デジカメ Walker	『応用ガイド』 79
	デジタルカメラの写真を編集 / 整理する	『応用ガイド』 79

	テレビに表示する	『応用ガイド』 112
	テレビを接続する	『応用ガイド』 112
	電源コードの仕様	『応用ガイド』 19
	電源コードの取り扱い	『応用ガイド』 20
	電源コネクタ	『応用ガイド』 17
	電源スイッチ	『応用ガイド』 16
	添付ファイルを開く (Outlook Express)	『基本をマスター』 88
	電話回線を接続する	『基本をマスター』 48
(ト)	東芝省電力ユーティリティ	『応用ガイド』 135
	東芝ホットキーユーティリティ	『応用ガイド』 28
	特殊機能キー	『応用ガイド』 28
	時計用バッテリー	『応用ガイド』 131
	〔閉じる〕 ボタン	『基本をマスター』 19
	ドライバをインストールする	『応用ガイド』 97
	ドライブ	『応用ガイド』 16, 50
	ドラッグアンドドロップ (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
		『応用ガイド』 31
	ドラッグアンドドロップ (マウス)	『基本をマスター』 14
(ナ)	内蔵モデム	『応用ガイド』 91
	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	『応用ガイド』 91
	ナチュラルインプット	『基本をマスター』 25
(ニ)	日本語入力システム MS-IME を起動する	『基本をマスター』 25
	入力に関する制御キー	『基本をマスター』 32
(ハ)	ハードウェアリソース	『応用ガイド』 164
	ハードディスクドライブ	『応用ガイド』 47
	パスワードの削除	『基本をマスター』 112
	パスワードの削除 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 157
	パスワードの設定	『基本をマスター』 110
	パスワードの登録 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 155
	パスワードの入力	『基本をマスター』 111
	パスワードの変更 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 157
	パスワードの変更	『基本をマスター』 112
	パスワードを忘れたときのために	『基本をマスター』 113
	パスワードを忘れてしまった場合 (BIOS セットアップ)	
		『応用ガイド』 159

パソコンの起動を制限する	『応用ガイド』 158
パソコンの設定	『基本をマスター』 53
パソコン本体の取り扱い	『応用ガイド』 20
バックアップ	『困ったときは』 32
バックライト用蛍光管	『応用ガイド』 46
バッテリー駆動での使用時間	『応用ガイド』 132
バッテリー充電量を確認する	『応用ガイド』 129
バッテリーの充電完了までの時間	『応用ガイド』 132
バッテリーの充電方法	『応用ガイド』 131
バッテリーパック	『応用ガイド』 18
バッテリーパックの交換方法	『応用ガイド』 133
バッテリー・リリースラッチ	『応用ガイド』 18
バッテリーを長持ちさせるには	『応用ガイド』 133
パネルスイッチ機能	『応用ガイド』 145
半／全キー	『応用ガイド』 22
 (ヒ) 左ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
.....	『応用ガイド』 16
左ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
ビデオモード	『応用ガイド』 163
表示可能色数	『応用ガイド』 39
ひらがなを入力する	『基本をマスター』 27
 (フ) ファイル	『基本をマスター』 37
ファイルの圧縮方法	『基本をマスター』 107
ファイルの解凍方法	『基本をマスター』 107
ファイルのコピー	『基本をマスター』 40
ファイルの作成	『基本をマスター』 38
ファイルの名前を変更する	『基本をマスター』 40
ファイルを削除する	『基本をマスター』 42
ファンクションキー	『応用ガイド』 22
フォーマット	『応用ガイド』 101
フォルダ	『基本をマスター』 37
フォルダのコピー	『基本をマスター』 40
フォルダの作成	『基本をマスター』 38
フォルダの名前を変更する	『基本をマスター』 40
フォルダを削除する	『基本をマスター』 42
複数のユーザで使用する	『基本をマスター』 114

	プラグアンドプレイ	『応用ガイド』 97
	プリンタケーブルの取り付け	『応用ガイド』 110
	プリンタケーブルの取りはずし	『応用ガイド』 111
	プリンタの設定	『応用ガイド』 110
	プリンタを接続する	『応用ガイド』 110
	ブロードバンドについて	『基本をマスター』 47
	フロッピーディスクドライブ	『応用ガイド』 99
	フロッピーディスクドライブの手入れ	『応用ガイド』 104
	フロッピーディスクの取り扱い	『応用ガイド』 104
	プロバイダと契約する	『基本をマスター』 51
	分岐アダプタ	『応用ガイド』 91
	文書を保存する	『基本をマスター』 30
(ヘ)	ヘッドホン出力端子	『応用ガイド』 16
	ヘッドホンの接続	『応用ガイド』 120
	ヘルプの起動 (日本語入力システム MS-IME)	『基本をマスター』 35
	ヘルプの起動方法 (Outlook 2003)	『基本をマスター』 105
	変換キー	『応用ガイド』 23
	変換し直す	『基本をマスター』 34
	変換の区切りを変える	『基本をマスター』 33
(ホ)	ホームページの画像を壁紙に設定する	『基本をマスター』 69
	ホームページの画像を保存する	『基本をマスター』 69
	ホームページの検索	『基本をマスター』 62
	ホームページの表示	『基本をマスター』 61
	ホームページを保存する	『基本をマスター』 68
	ホイール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	ホイール (マウス)	『基本をマスター』 11
	ポインタ	『基本をマスター』 8
	ポインタを動かす (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	ポインタを動かす (マウス)	『基本をマスター』 13
	ボリュームコントロール	『応用ガイド』 48
	ボリュームダイヤル	『応用ガイド』 16, 48
	本製品の仕様	『応用ガイド』 162
(マ)	マイク入力端子	『応用ガイド』 16
	マイクロホンの接続	『応用ガイド』 119
	マウス	『基本をマスター』 11

(ミ)	右クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	右クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	右ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
		『応用ガイド』 16
	右ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
(ム)	無変換キー	『応用ガイド』 22
(メ)	メールにファイルを添付する (Outlook Express) ..	『基本をマスター』 84
	メールを検索する (Outlook Express)	『基本をマスター』 97
	メールを削除する (Outlook Express)	『基本をマスター』 92
	メールを作成する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 102
	メールを作成する (Outlook Express)	『基本をマスター』 81
	メールを受信する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
	メールを受信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
	メールを整理する (Outlook Express)	『基本をマスター』 93
	メールを送信する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
	メールを送信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 85
	メールを転送する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 104
	メールを転送する (Outlook Express)	『基本をマスター』 91
	メールを返信する (Outlook 2003)	『基本をマスター』 104
	メールを返信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 90
	メニューバー	『基本をマスター』 19
	メモ帳	『基本をマスター』 24
	メモリマップ	『応用ガイド』 164
	メモリ容量の確認	『応用ガイド』 126
	メモリを増設する	『応用ガイド』 121
(モ)	文字キー	『基本をマスター』 23
	文字化け	『基本をマスター』 79
	モジュラージャック	『応用ガイド』 17
	文字を削除する	『基本をマスター』 33
	[元に戻す (縮小)] ボタン	『基本をマスター』 19
(ヤ)	矢印キー	『応用ガイド』 23
(ユ)	ユーザアカウントの設定を変更する	『基本をマスター』 117
	ユーザアカウントを切り替える	『基本をマスター』 115
	ユーザアカウントを追加する	『基本をマスター』 114

- (ヨ) 読みかたがわからない文字を入力する『基本をマスター』 34
- (ラ) ライトプロテクトタブ『応用ガイド』 101
- (リ) リカバリ CD-ROM『困ったときは』 67
 リカバリ DVD-ROM『困ったときは』 67
 リリース情報『応用ガイド』 9
 履歴『基本をマスター』 71
- (ロ) ローマ字入力『基本をマスター』 25
 ローマ字入力一覧表『基本をマスター』 122
 録音レベルの調整『応用ガイド』 49

